

ナイジェリア連邦共和国
女性の生活向上のための
女性センター活性化支援プロジェクト
中間評価調査報告書

平成 21 年 4 月
(2009年)

独立行政法人国際協力機構
公共政策部

公 共
J R
09-010

**ナイジェリア連邦共和国
女性の生活向上のための
女性センター活性化支援プロジェクト
中間評価調査報告書**

平成21年4月
(2009年)

独立行政法人国際協力機構
公共政策部

序 文

ナイジェリア連邦共和国の要請に基づき、独立行政法人国際協力機構は、技術協力プロジェクト「女性の生活向上のための女性センター活性化支援プロジェクト」を2007年1月より3年間の予定で実施しています。当機構のアフリカ支援は幅広い分野で実施されていますが、ジェンダー主流化を進めるプロジェクトはアフリカでは初めてです。

今般、協力期間の中間時点が経過したため、本プロジェクトの進捗や目標・成果の達成状況を確認したうえで、評価5項目の観点からの評価分析を行うとともに、今後の協力の方向性に係る協議を行うことを目的として2008年11月9日から29日まで、公共政策部ジェンダー平等推進課長を団長とする調査団を派遣し、中間評価調査を実施しました。本報告書は同調査の結果を取りまとめたものであり、今後の本プロジェクトの展開、また、他の技術協力を効果的に実施するために活用されることを願うものです。

ここに、本調査にご協力とご支援を頂いた内外関係者の方々に、心より感謝申し上げます。

平成21年4月

独立行政法人国際協力機構

公共政策部長 **中川 寛章**

目 次

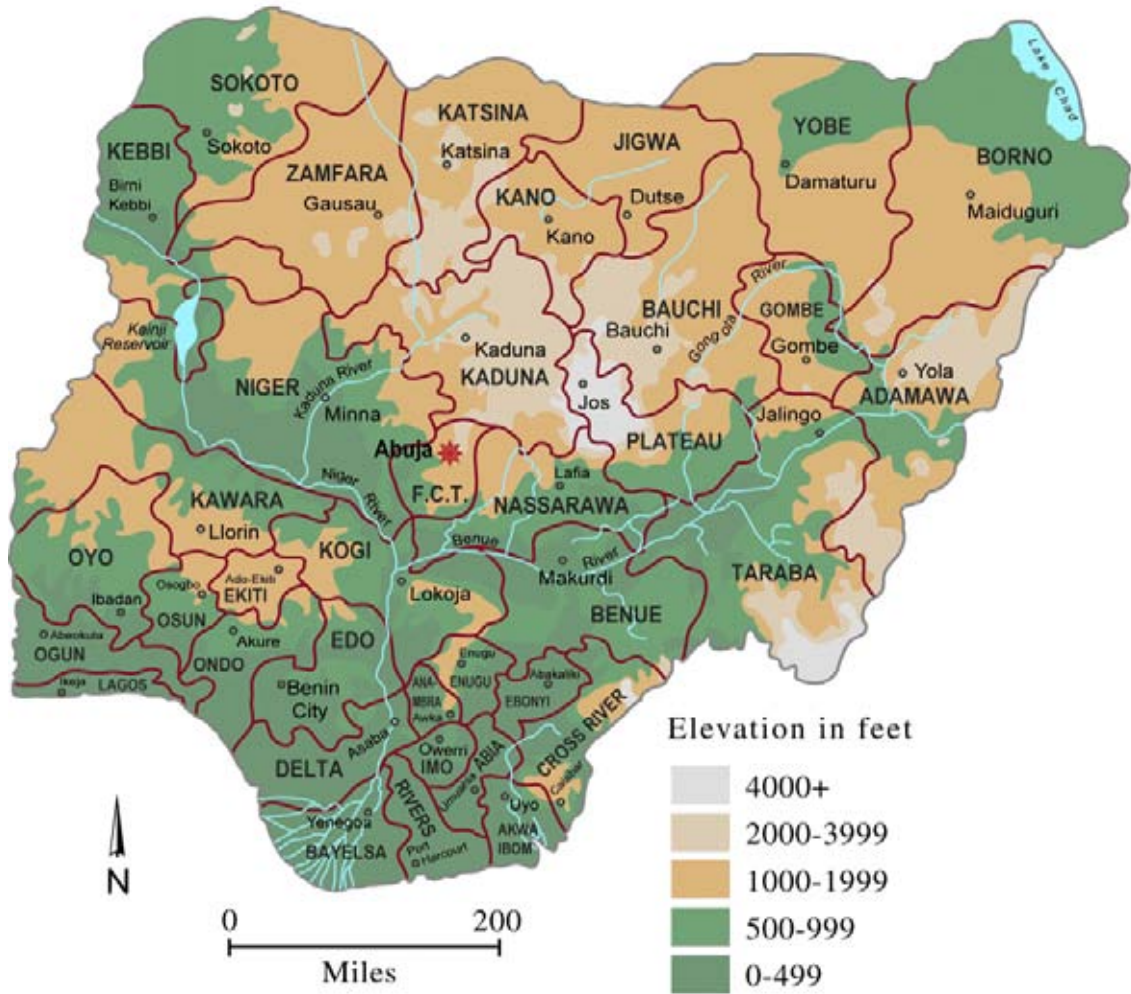
序 文
目 次
地 図
写 真
略語表

中間評価調査結果要約表

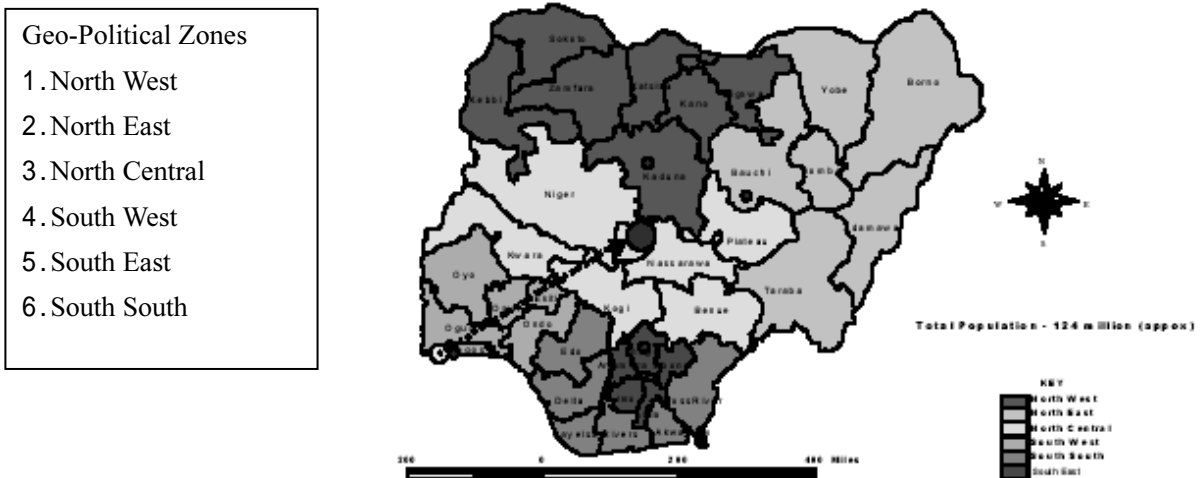
第1章 中間評価の概要	1
1 - 1 中間評価調査団派遣の経緯と目的	1
1 - 2 評価者の構成	2
1 - 3 調査日程	2
1 - 4 主要面談者	3
1 - 5 評価項目・評価方法	5
第2章 プロジェクトの実績と現状	7
2 - 1 実績と現状の総括	7
2 - 2 投入実績	7
2 - 3 活動実績	8
2 - 4 成果の達成状況	9
2 - 5 技術移転状況	12
2 - 6 プロジェクト実施体制	12
第3章 評価結果	13
3 - 1 妥当性	13
3 - 2 有効性	13
3 - 3 効率性	14
3 - 4 インパクト	14
3 - 5 自立発展性	14
3 - 6 結 論	15
第4章 ジェンダー主流化の観点からの評価	16
4 - 1 政策の変化	16
4 - 2 公務員の態度・意識の変化	17
4 - 3 裨益者の態度・意識の変化	18
4 - 4 ジェンダー主流化推進に果たす本プロジェクトの役割と今後の課題	19

第5章 PDMの修正と今後の活動への提言	20
5 - 1 PDM修正	20
5 - 2 今後の活動への提言	21
第6章 団長所感	23
付属資料	
1 . 協議議事録 (Minutes of Meeting) (投入実績表、評価グリッド、修正 PDM を含む)	27
2 . 評価グリッド (和文)	70
3 . 面談録	81

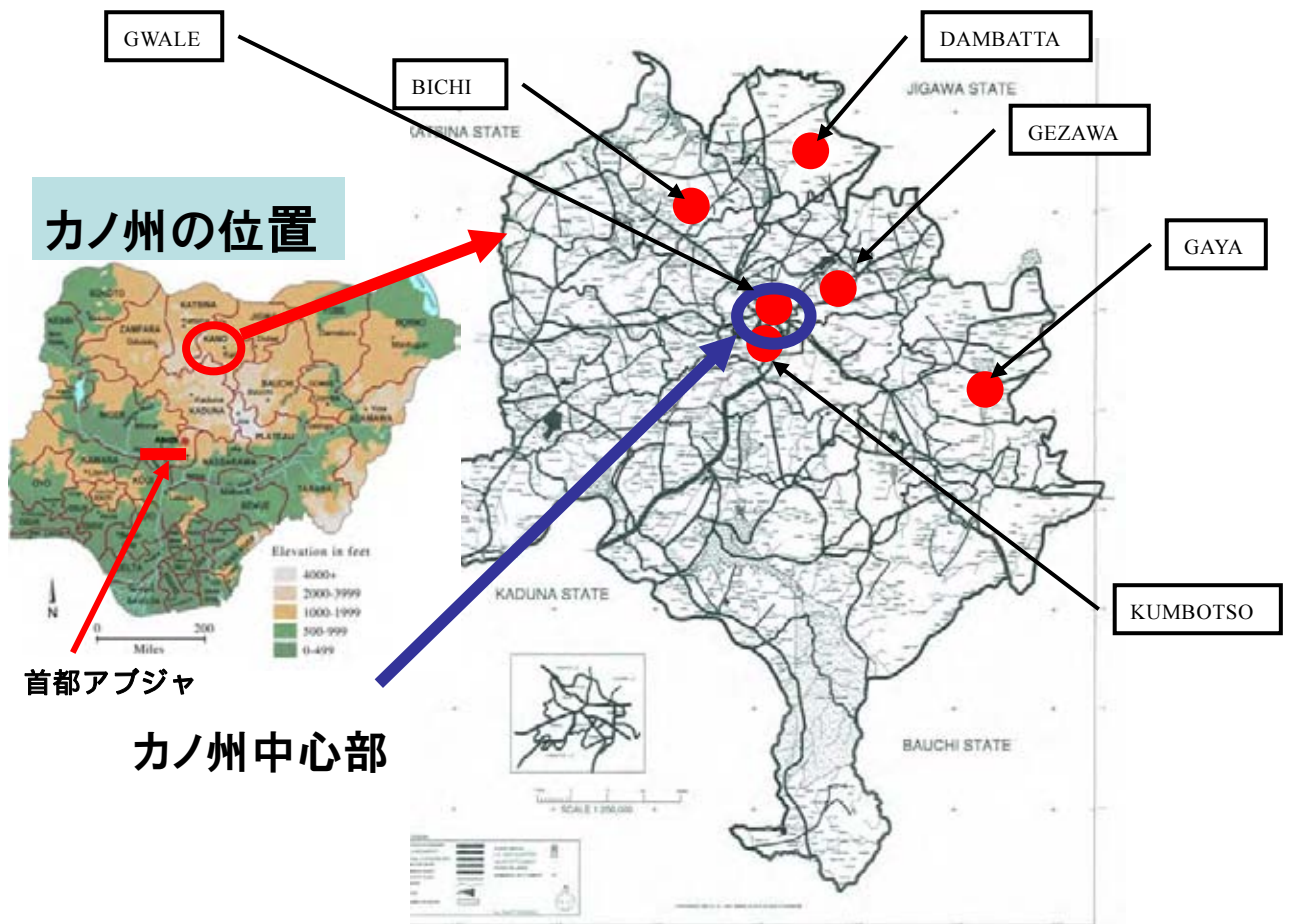
ナイジェリア連邦共和国地図



ナイジェリア政治的地理 6 区分 出典：CEDAW 報告書 2003 年



プロジェクトサイト位置図



《参考》カノ市内中心部から各 LGA への車での移動時間

LGA	地域	移動目安時間
BICHI	村落部	40 ~ 60 分
DAMBATTA	村落部	45 ~ 60 分
KUMBOTSO	都市近郊	30 分
GAYA	村落部	60 ~ 90 分
GEZAWA	村落部	45 ~ 60 分
GWALE	都市部	15 分以内



聞き取り調査の様子（ピチ WDC）



聞き取り調査の様子（クンボツォ WDC）



校長からの聞き取り調査の様子（クンボツォ WDC）



カノでの PCM ワークショップの様子



カノでの PCM ワークショップの様子



カノ州政府表敬



歓迎セレモニーの様子（ピチ WDC）



歓迎セレモニーの様子（クンボツォ WDC）



連邦女性社会開発省（FMWA）表敬



アブジャでの PCM ワークショップの様子



JCC の様子



M/M 署名式

略 語 表

略語	正式名称	日本語名称
CIDA	Canadian International Development Agency	カナダ国際開発庁
DFID	Department for International Development	英国国際開発省
DG	Director-General	(NCWD)センター長
FMWA	Federal Ministry of Women Affairs and Social Development	連邦女性社会開発省
JCC	Joint Coordinating Committee	合同調整委員会
JICA	Japan International Cooperation Agency	独立行政法人 国際協力機構
LGA	Local Government Area	地方行政区
M/M	Minutes of Meeting	協議議事録
NCWD	National Centre for Women Development	国立女性開発センター
NEEDS	National Economic Empowerment and Development Strategy	国家経済強化開発戦略
NPC	National Planning Commission	国家計画委員会
PCM	Project Cycle Management	プロジェクト・サイクル・マネージメント
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス
PO	Plan of Operation	活動計画
PS	Permanent Secretary	事務次官
R/D	Record of Discussion	討議議事録
SEEDS	State Economic Empowerment and Development Strategy	州経済強化開発戦略
SMWA	State Ministry of Women Affairs and Social Development	州女性社会開発省
USAID	United States Agency for International Development	米国国際開発庁
WDC	Women Development Centre	女性開発センター

中間評価調査結果要約表

1. 案件の概要	
国名：ナイジェリア連邦共和国	案件名：女性の生活向上のための女性センター活性化支援プロジェクト
分野：ジェンダーと開発	援助形態：技術協力プロジェクト
所轄部署：公共政策部 ジェンダー平等推進課	協力金額（評価時点）：約1億2,700万円
協力期間	（R/D）： 2007年1月25日～ 2010年1月24日 先方関係機関： 国立女性開発センター（National Centre for Women Development: NCWD） カノ州女性社会開発省（State Ministry of Women Affairs and Social Development: SMWA）
<p>1 - 1 協力の背景と概要</p> <p>ナイジェリア連邦共和国（以下、「ナイジェリア」と記す）では、1日1ドル以下で生活する貧困ライン以下の人口率が約70%と非常に高く、貧富の格差も大きい。また、他のアフリカ諸国と比較して、特に成人識字率や推定所得などのジェンダー格差が目立っている。</p> <p>このような状況に対し、ナイジェリア政府は連邦女性社会開発省（FMWA）の設立、国家ジェンダー政策の策定など、マクロレベルでのジェンダー平等推進のための基本的な政策・制度的枠組みを整備している。しかし、政治・経済の意思決定に参画できるのは少数のエリート女性に限られ、コミュニティレベルでの圧倒的多数の貧困層女性との二極化が顕著になっている。コミュニティレベルでは、一般的に男性が世帯収入の用途を決定し、保健や教育などの女性や子供のニーズが優先されていない。女性が世帯のために収入を増やし、かつ収入を生活向上に利用するためには、収入を得るためのスキル取得だけでなく、女性が経済活動に携わることへの男性やコミュニティの理解、女性の移動可能性の拡大（移動手段や移動時の安全の確保など）、社会的ネットワークの構築など、女性がもつ潜在能力を引き出すことを可能にさせる平等な社会環境づくりと、女性自身が自身の置かれた状況に気づき、問題を自覚し、自らの生活の調整と改善を図る力をつけることが必要となる。</p> <p>女性開発センター（Women Development Centre: WDC）は、女性対象の識字・職業訓練の場として1980年代後半から全国に設置され、草の根レベルの女性の生活向上に貢献してきた。FMWAの附属機関である国立女性開発センター（National Centre for Women Development :NCWD）は90年代初めに全国のWDCの本部として設置された。現在はジェンダーに関する調査・研究・研修を担う機関として、全国のWDCの現状調査や女性の職業訓練を実施している。NCWDによるWDCの全国調査を通じて、WDCは貧困女性の生活向上に貢献し得るものの、その多くは適切に運営されておらず、資金不足もありWDC利用者のニーズを十分に満たしていないことが確認された。</p> <p>このような背景の下、WDCが貧困層女性の生活向上に貢献する学びとエンパワーメントの場として、持続的に活用されるための適切な運営モデルを確立するため、ナイジェリア政府により本プロジェクトが要請され、2007年1月より3年間を協力期間として本プロジェクトが開始された。</p>	

1 - 2 協力内容

(1) 上位目標

WDC が機能することを通じて、ナイジェリアのコミュニティレベル、世帯レベルで女性のエンパワーメントが向上する

(2) プロジェクト目標

プロジェクトの経験に基づき、WDC 活性化とマネージメントのために効果的な Guiding Framework が NCWD によってつくられる

(3) 成果

- 1) 対象地域においてパフォーマンスのよい WDC のグッドプラクティスが生み出される。
パフォーマンスは、WDC のサービスの質の向上、WDC への肯定的認識の向上、WDC のマネージメントの質の向上、の3点で定義される
- 2) 収集されたグッドプラクティスに基づき、ガイドラインのドラフトが作成される
- 3) プロジェクトにかかわる NCWD、SMWA スタッフの能力が向上する

(4) 投入（評価時点：2008年10月末）

日本側：

長期専門家派遣 1名

短期専門家派遣 7名

研修員受け入れ 10名

機材供与 1,145万5,051Naira（ナイラ）=1,059万円

ローカルコスト負担 4,364万3,184ナイラ=3,737万円

相手国側：

カウンターパート（C/P）配置 10名（NCWD 6名、カノ州 SMWA 4名）

土地・施設提供 NCWD：プロジェクト事務所

SMWA：プロジェクト用スペース

ローカルコスト負担 NCWD：386万4,559ナイラ（2007～2008）

SMWA：約340万ナイラ（2008）

2. 評価調査団の概要

調査者	団長・総括	武藤 亜子	JICA 公共政策部 ジェンダー平等推進課 課長
	協力企画/ジェンダー	上田 めぐみ	JICA 公共政策部 ジェンダー平等推進課 ジュニア専門員
	評価分析	河原 里恵	(株)アールクエスト代表取締役
調査期間	2008年11月9日～2008年11月29日		調査種類：中間評価

3. 実績の確認

<成果1> 対象地域においてパフォーマンスのよいWDCのグッドプラクティスが生み出される活動は順調に進捗しており、サービスの質の向上、コミュニティからの肯定的認識の向上、マネジメントの質の向上、ともに多くのグッドプラクティスが発現していることが確認された。

1-1 WDCのサービスの質の向上の達成度

短期専門家によるスキルアップ研修やスタディーツアーの実施を通じて、WDC講師の技術や意欲は向上しており、モニタリング調査の結果ではWDCが提供するサービスについて、参加者の満足度は高まっており、質の向上が確認された。

1-2 コミュニティからWDCへの肯定的な認識向上の達成度

宗教リーダーや伝統リーダー、コミュニティの男性も視野に入れた啓発活動、ラジオ番組などを通じてコミュニティ、WDC参加者の夫、非WDC参加者からのWDC活動への肯定的認識が高まっている。

1-3 WDCのマネジメントの質の向上の達成度

短期専門家によるマネジメント研修、OJTにより、WDCの年間計画、記録などの管理方法が改善されており、マネジメントの重要性への理解が高まっている。

<成果2> 収集されたグッドプラクティスに基づき、ガイドラインのドラフトが作成される

ガイドラインドラフト第1章が完成し、2008年10月の全国を対象にしたガイドラインフォーラムで発表された。対象6WDCのグッドプラクティスをベースとし、他州のグッドプラクティスも取り入れたガイドライン全編は、2009年11月に完成予定である。

<成果3> プロジェクトにかかわるNCWD、SMWAスタッフの能力が向上する

プロジェクトチームメンバーの能力はプロジェクト実施や各種研修、ワークショップの参加、日本人長期・短期専門家との日々の活動を通じて向上がみられる。ただし、個人差が見受けられ、文書作成やプレゼンテーションスキルといった能力強化が更に必要である。

<プロジェクト目標の達成度>

プロジェクト目標：プロジェクトの経験に基づき、WDC活性化とマネジメントのために効果的なGuiding FrameworkがNCWDによってつくられる

プロジェクトはおおむね順調に進捗しており、成果1、2、3についても良好な効果を生み出している。しかし、Guiding Frameworkを形成する「ガイドライン」「人材」「予算」のうち、「人材」であるC/P機関職員の更なる能力強化が必要であること、「予算」のキーとなるC/PファンドをNCWDが確保できていないことが懸念事項であり、プロジェクト終了までにこれらの問題が解決されれば、プロジェクト目標は達成されることが見込まれる。

4．評価結果の概要

4 - 1 妥当性

本プロジェクトの妥当性は非常に高い。

プロジェクト内容は 2006 年に発表されたナイジェリアの国家ジェンダー政策に合致している。この政策はナイジェリアの貧困削減へのアプローチとしてジェンダー主流化を謳っているものである。また 2006 年に全国女性評議会（National Council of Women Affairs）が採択したコミュニケによれば、本プロジェクトの C/P 機関である NCWD は全国の WDC の活性化に関するガイドライン作成がマנדートとなっており、その点においても NCWD を支援することは妥当性が高い。

また本プロジェクトは日本の ODA 大綱での貧困削減への支援、並びに外務省・JICA の国別支援の重点課題のうち、女性のエンパワーメントにも一致していることから、妥当性は確保されていると判断される。

4 - 2 有効性

本プロジェクトの有効性は高く、今後もその効果は増加するものと判断される。

プロジェクト目標は明確に設定されており、現在までの努力が今後も続く限り、ほとんどの成果はプロジェクト終了時（2010 年 1 月）までに達成が可能である。モニタリング調査や聞き取り調査の結果では、参加者からの WDC のサービスの質、例えばカリキュラム、機材、生地や毛糸、教材などの資材提供への満足度は高い。

成果 1 に関して、既にパイロット対象地域の 6 WDC では数多くのグッドプラクティスが発現しており、下記の事例がみられる。

- 1) 新たな WDC の建設が村落部に予定されている。(Bichi)
- 2) 2007 年に焼失した WDC への機材が地方行政区(LGA)により新たに調達された。(Gwale)
- 3) LGA が各ワード(サブ区: 全部で 10 サブ区) から女性各 2 名を選出し、WDC への参加を交通費の面で支援している。(Dambatta)
- 4) 参加者数の急増により WDC の拡張が予定されている。(Kumbotso)
- 5) 女性開発オフィサー(WDO) が WDC コースの要望を聞くために家庭訪問をしている。(Gaya)
- 6) WDC の収入創出のため、養鶏を行っている。(Gezawa)

WDC 校長や WDO、WDC 講師は、プロジェクトによる WDC のマネジメントの改善、例えば、生徒の登録簿、出席簿、資機材管理簿等の各種記録簿を作成・管理するための研修への参加に、大変満足している。

また WDC の活動に対するコミュニティ、夫や WDC 非参加者の WDC に対する好意的な認識も高まり、コミュニティリーダーや夫たちは女性に対して、WDC での活動に参加することを奨励する動きが出てきている。同時に WDC が学びの場、スキルアップの場として理解され、参加者や参加希望者が急増している。この結果、いくつかの LGA では WDC の新設や拡張、活動予算の増加を実施ないしは計画している。

成果 2 に関して、ガイドラインドラフト第 1 章が 2008 年 10 月に全国レベルで開催されたガイドラインフォーラムにて発表された。2009 年 11 月に全編完成の予定である。

成果 3 に関して、プロジェクトチームメンバー（NCWD とカノ州 SMWA 職員で構成）の能力強化は順調に推移しているものの、その能力には個人差がみられるのが現状である。

4 - 3 効率性

本プロジェクトの効率性は高い。

本プロジェクトへの人的投入は長期専門家 1 名、短期専門家 7 名と比較的小規模であり、機材の投入数やコストも他の案件に比して相対的に小さい。しかし、開始後 2 年未満にもかかわらず、本プロジェクトでは既に多くのグッドプラクティスが発現するなど、期待以上の成果を生み出しており、その効果は WDC だけでなくコミュニティ全体にも波及している。

ナイジェリア側、日本側からの投入はともにほぼ計画どおりに進捗し、両者の努力により、成果の達成に成功裡に結びついている。投入はコミュニティへの好影響のみならず、WDC 参加者の夫が WDC の重要性をより一層認識する結果となっている。

長期専門家と短期専門家による技術移転は、日々の指導や計画策定、プロジェクトの実施を通じて行われているが、その手法も C/P の自信の向上につながる結果となっており、技術移転の方法は適切に行われている、と判断される。

その反面、特に中央レベルの C/P 機関である NCWD の予算確保が困難な状況にあり、プロジェクトの進捗あるいは成果達成への阻害要因となる可能性がある。ナイジェリア側により、C/P ファンドが早急に確保されることが望ましい。

4 - 4 インパクト

プロジェクト実施のインパクトは非常に良好であり、現在までの努力が今後も継続され、外部条件が整うならば、プロジェクト目標は達成される見込みが大きい。

WDC の活性化により、LGA あるはコミュニティや夫の、WDC に対する学びの場や収入創出へつながる場としての理解や認識が高まっている。例えば、夫が妻の WDC コース出席に対し必要な交通費や諸経費を負担するという事例、LGA のコミュニティ開発局長（HOD）が WDC を視察訪問する機会が増える、WDC に手当する予算を増やすなど、肯定的な変化が数多くみられる。LGA によっては、参加希望者の増大に対応し、より多くの女性に WDC 活動への参加機会を増やすため、WDC の新設・拡張を実施・計画している例もある。

4 - 5 自立発展性

ガイドラインに基づき、WDC が活性化され、活動の継続を担保する予算・人員の確保がなされる限り、自立発展性は期待できると予想される。その反面、今後のスムーズなプロジェクト実施とオーナーシップの確保のためには、ナイジェリア側が必要な予算を準備することが重要である。

NCWD 及び SMWA のプロジェクトチームメンバー、WDO や WDC スタッフは、さまざまな調査、モニタリング活動、長期専門家や短期専門家からの日々の指導、日本での研修やナイジェリア国内での訓練等により、個々の力量にばらつきはあるものの、スキルや知識の向上を成し遂げてきている。その一方で、計画策定・管理、時間管理、プロジェクト進捗監理や評価、また文書作成や発表などの能力に関しては、プロジェクト終了時までには更なる強化が必要である。

5 . 結 論

2008 年 10 月までの成果達成の状況、また評価 5 項目を基にした分析の結果から、プロジェクトは非常に成功裡に進捗しており、このまま外部条件に大きな変更がなければ、終了時までにプロジェクト目標とすべての成果の達成が可能である、と予測される。これは、ナイジェリア側プロジェクトチーム及び日本人専門家、双方の努力が結実しているといえる。

6 . 提 言

以上の結果を踏まえ、調査団は以下の提言を行った。詳細内容については第 5 章で触れる。

- (1) プロジェクトメンバーの更なる能力強化の必要性
- (2) プロジェクトメンバーが主導する活動の拡大
- (3) プロジェクト活動への地方行政省、地方行政区の参加促進
- (4) ローカルコスト問題の改善
- (5) 女性のニーズを把握する仕組みづくりの重要性

第 1 章 中間評価の概要

1 - 1 中間評価調査団派遣の経緯と目的

ナイジェリア連邦共和国（以下、「ナイジェリア」と記す）では、1日1ドル以下で生活する貧困ライン以下の人口率が約70%と非常に高く、貧富の格差も大きい。また、他のアフリカ諸国と比較して、特に成人識字率や推定所得などのジェンダー格差が目立っている。

このような状況に対し、ナイジェリア政府は連邦女性社会開発省（FMWA）の設立、国家ジェンダー政策の策定など、マクロレベルでのジェンダー平等推進のための基本的な政策・制度的枠組みを整備している。しかし、政治・経済の意思決定に参画できるのは少数のエリート女性に限られ、コミュニティレベルでの圧倒的多数の貧困層女性との二極化が顕著になっている。コミュニティレベルでは、一般的に男性が世帯収入の用途を決定し、保健や教育などの女性や子供のニーズが優先されていない。女性が世帯のために収入を増やし、かつ収入を生活向上に利用するためには、収入を得るためのスキル取得だけでなく、女性が経済活動に携わることへの男性/コミュニティの理解や、女性の移動可能性の拡大（移動手段や移動時の安全の確保など）、社会的ネットワークの構築など、女性がもつ潜在能力を引き出すことを可能にさせる平等な社会環境づくりと女性自身が自身の置かれた状況に気づき、問題を自覚し、自らの生活の調整と改善を図る力をつけることが必要となる。

女性開発センター（Women Development Centre:WDC）は、女性対象の識字・職業訓練の場として1980年代後半から全国に設置され、草の根レベルの女性の生活向上に貢献してきた。FMWAの附属機関である国立女性開発センター（National Centre for Women Development:NCWD）は90年代初めに全国のWDCの本部として設置された。現在はジェンダーに関する調査・研究・研修を担う機関として、全国のWDCの現状調査や女性の職業訓練を実施している。NCWDによるWDCの全国調査を通じて、WDCは貧困女性の生活向上に貢献し得るものの、その多くは適切に運営されておらず、資金不足もありWDC利用者のニーズを十分に満たしていないことが確認された。

このような背景の下、WDCが貧困層女性の生活向上に貢献する学びとエンパワーメントの場として、持続的に活用されるための適切な運営モデルを確立するため、ナイジェリア政府により本プロジェクトが要請され、2007年1月より3年間を協力期間として本プロジェクトが開始された。

2008年度はプロジェクトの中間時点であるため、以下のように中間評価調査を行った。

- (1) これまで実施した協力活動について、討議議事録（R/D）、プロジェクト・デザイン・マトリックス（PDM）及び活動計画（PO）に基づき、投入実績、活動実績、計画達成度を確認する。
- (2) 計画達成度を踏まえ、ナイジェリア関係者ととも評価5項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性）の観点、またジェンダー主流化の視点からプロジェクトの評価を行う。
- (3) 以上の評価結果に基づき、プロジェクトの課題及び今後の活動計画、展開の方向性について、ナイジェリア関係者と協議し、教訓を引き出すとともに必要な提言を行う。
- (4) 現在のPDMを検証、ナイジェリア側とも協議し、修正版PDMを作成する。
- (5) 調査結果をJoint Coordinating Committee（JCC）にて関係者に報告し、課題や改善策について

て協議後、合意事項をミニッツ（M/M）に取りまとめ、ナイジェリア側との署名により確認する。

1 - 2 評価者の構成

(1) 日本側調査団員

担当分野	氏名	所属先・役職名	派遣日程
団長・総括	武藤 亜子	JICA 公共政策部 ジェンダー平等推進課 課長	11月19日～29日
協力企画/ ジェンダー	上田 めぐみ	JICA 公共政策部 ジェンダー平等推進課 ジュニア専門員	11月16日～29日
評価分析	河原 里恵	(株)アールクエスト	11月9日～29日

(2) その他現地関係者

ナイジェリア側プロジェクト関係者

- ・国立女性開発センター（NCWD）メンバー
- ・カノ州女性社会開発省（SMWA）メンバー
- プロジェクト長期専門家

1 - 3 調査日程

日順	月日	曜日	内容
1	11月10日	月	評価分析団員 アブジャ着（5:30） JICA 事務所、NCWD、長期専門家と打合せ
2	11月11日	火	カノへ出発（8:00） カノ州 SMWA にて打合せ（13:30）
3	11月12日	水	ビチ WDC/LGA にて調査
4	11月13日	木	ガヤ WDC/LGA にて調査
5	11月14日	金	ゲザワ WDC/LGA にて調査
6	11月15日	土	資料整理
7	11月16日	日	資料整理
8	11月17日	月	グワレ WDC/LGA 調査 協力企画/ジェンダー団員 カノ着（22:45）
9	11月18日	火	カノ州関係者で PCM ワークショップ
10	11月19日	水	ダンバッタ WDC/LGA にて調査 カノ州地方行政省表敬
11	11月20日	木	クンボッツォ WDC/LGA にて調査 総括/団長 カノ着（22:45）
12	11月21日	金	カノ州 SMWA 表敬 ビチ WDC、クンボッツォ WDC 訪問 カノ州政府表敬

13	11月22日	土	ゲワレ WDC 訪問 アブジャへ移動
14	11月23日	日	資料整理
15	11月24日	月	JICA 事務所 (9:00)、NCWD 訪問 FMWA 表敬
16	11月25日	火	NCWD プロジェクトメンバーと PCM ワークショップ PDM 改訂作業、ミニッツ準備
17	11月26日	水	第4回 JCC、ミニッツ署名
18	11月27日	木	日本大使館報告 (11:00)、NPC 報告 (13:30) ドナー会合 (16:30)、JICA 事務所報告
19	11月28日	金	アブジャ発 (8:00)
20	11月29日	土	成田着 (16:00)

1 - 4 主要面談者

(1) 国立女性開発センター (NCWD)

Dr. Aisha Usman Mahmood, Director General/Project Director
 Mr. Mallam Sadeeq Omar, Project Manager/Director, Planning and Research
 Mr. Woyengikuro Turner George, Project Coordinator/Principal Administrative Officer
 Mr. Azubike Ogu, Research Officer

(2) 連邦女性社会開発省 (FMWA)

Ms. Grace Ekpiwhre, Acting-Minister
 Mr. Y.N. Giwa, Permanent Secretary
 Mr. Sukalgo, Director, Rehabilitation Dept.

(3) 国家計画委員会 (NPC)

Mr. George C. Nwalupue, Director, Bilateral Economic Cooperation Dept.
 Mr. Nwozuzu Samuel, Assistant Chief, Planning Officer

(4) カノ州女性社会開発省 (SMWA)

Ms. Maimuna Khalil, Commissioner
 Ms. Aishatu Atiku, Director of Department of Women Affairs
 Mr. Aminu Sa'ad Kuwara, Deputy Director of Department of Women Affairs
 Ms. Maimuna Sani, Desk Officer, Women in Development Unit, Department of Women Affairs
 Ms. Umma Muhammad, Assistant Desk Officer, Department of Women Affairs

(5) カノ州政府

Mr. Tijjiani Gwazo (副知事)

(6) カノ州地方行政省

Mr. Abdumalik Yakub, Permanent Secretary

(7) 地方行政区 (LGA) /女性開発センター (WDC)

< Bichi >

Mr. Salijh Tijjani, Head of Community Development Department, LGA

Ms. Zaibnab Ahmad, Women Development Officer, LGA

Ms. Aishatu Abubakar, Head, WDC

< Gaya >

Ms. Hafsa Abdullahi Suleiman, Women Development Officer, LGA

Ms. Sabuwa Baffa, Head, WDC

< Gezawa >

Mr. Musa Usman Hari, Assistant Deputy, Community Development Department, LGA

Ms. Maijidda Backy, Women Development Officer, LGA

Ms. Magajiya Bashir, Head, WDC

< Gwale >

Mr. Abbas, Chair, LG Council

Ms. Khaji Iman Abudulla, Women Development Officer, LGA

Ms. Hajara Ali Kiru, Head, WDC

<Dambatta >

Mr. Ado Ali Fagwalawa, Secretary

Mr. Abdullaaziz Namam, Assistant Head, Community Development Department

Ms. Fatima Usman, Women Development Officer, LGA

Ms. Aisha Sobo Idris, Head, WDC

< Kumbotso >

Mr. Ubale Yari, Head of Social Development Department

Ms. Hadiza Jafar Aliya, Head, WDC

(8) 他ドナー機関

Ms. Johanna Schalkwyk, Consultant, CIDA

Ms. Esther Eghobamien, Gender Equality Advisor, CIDA

Mr. Rob Shooter, Senior Programme Coordinator, Human Development, DFID

Mr. Obinna Idika, Research/monitoring & Evaluation Advisor, USAID

(9) 在ナイジェリア日本国大使館

植澤 利次 大使

渡辺 信人 一等書記官

(10) JICA ナイジェリア事務所

美馬 巨人 所長

甲斐田 きよみ 長期専門家

1 - 5 評価項目・評価方法

1 - 5 - 1 評価項目

JICA 事業評価ガイドライン（2004 年）に準じた、評価 5 項目とそれらの主な視点は下記のとおりである。特に中間評価では「妥当性」、「効率性」の状況を現状に基づいて検証し、その阻害要因、貢献要因も併せて分析した。

評価 5 項目	主な視点
妥当性	必要性、優先度、手段の妥当性の観点から、プロジェクト実施の正当性・必要性を評価する。 必要性（ターゲットグループのニーズとの整合性） 優先度（ナイジェリアの開発政策・我が国の援助計画との整合性） 手段としての妥当性（適用方法の妥当性、ターゲットグループ選定の適切性、等）
有効性（予測）	プロジェクト目標の達成度を検証し、プロジェクトの効果を評価する。
効率性	投入（コスト）と成果の達成状況とを比較し、プロジェクトの実施の効率性を評価する。
インパクト（予測）	上位目標の達成の見込み、その他の波及効果を評価する。
自立発展性（見込み）	政策・制度面、組織・財政面、技術面等の観点から、総合的な自立発展性の可能性を評価する。

これらの調査の結果は評価グリッド（英語版）でも整理を行った。評価グリッドとは、評価調査をどのように実施するのが適切かを考え、整理するためのツールであり、また評価のデザインを協議するためのものである。〔評価グリッドでは実績・プロセスの検証、評価 5 項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性）や指標をベースとする判断基準、必要なデータ、情報源、データ収集方法、等を整理する。〕

1 - 5 - 2 評価方法

プロジェクトでの投入、活動、成果やプロジェクト目標の達成度並びに実施プロセスについて、主に下記の 4 種の情報を用い、調査を実施した。

- 1) 文献調査（長期派遣専門家による進捗報告書、短期派遣専門家による報告書やモニタリ

ング調査報告書等の記録、R/D、M/M、既存 PDM、PO などのプロジェクト文書のレビュー)

2) 聞き取り調査(長期派遣専門家、C/P、WDC 職員等を対象)

3) パイロットサイト(カノ州のパイロット対象地域の 6 つの WDC)への視察訪問、聞き取り調査

4) 会議や議論(JCC での議論、発表、等)

第2章 プロジェクトの実績と現状

2 - 1 実績と現状の総括

投入と活動はほぼ計画どおりに行われており、活動は中間評価調査の時点でほとんどが終了するなど、成功裡に進んでいる。

2 - 2 投入実績

投入の実績は下記のとおりである。今後の課題のひとつとして、国立女性開発センター（NCWD）により、カウンターパート（C/P）ファンドが適切に投入されることがあげられる。

2 - 2 - 1 ナイジェリア側

(1) C/P 配置（プロジェクトチーム）

1) NCWD：延べ 15 名（2008 年 10 月現在、6 名）

プロジェクトダイレクター NCWD センター長

プロジェクトマネージャー NCWD 調査局長

プロジェクトコーディネーター NCWD 調査局職員

2) カノ州女性社会開発省（SMWA）：4 名

プロジェクトデスクオフィサー SMWA 女性局職員

(2) 活動経費と機材・施設

1) NCWD：2008 年の C/P ファンドは未承認である。

2) カノ州 SMWA：2008 年度：340 万ナイラ

(3) プロジェクト実施、管理・支援体制

1) NCWD：実施機関

2) SMWA：実施機関・6 パイロット WDC の監督・モニタリング機関

(4) 施設

NCWD にプロジェクト事務所、カノ州 SMWA にプロジェクトスペース有

2 - 2 - 2 日本側

(1) 長期専門家：1 名（ジェンダーと開発）

(2) 短期専門家：7 名（参加型社会開発、組織分析、組織運営強化 2 名、グッドプラクティス調査・手法、研修計画・管理 2 名）

(3) 本邦研修：10 名（2 名：集団研修、8 名：国別研修）

(4) ナイジェリア国内研修：延べ 614 名（13 回）

(5) 機材：計 1,145 万 5,051 ナイラ（627 万 1,051 ナイラ + 518 万 4,000 ナイラ）= 1,059 万 1,051 日本円相当

(6) 現地活動費：2007 年：2,182 万 78 ナイラ、2008 年：2,182 万 3,106 ナイラ（計 4,364 万 3,184 ナイラ = 約 3,737 万円）

（交換レート：1 米ドル=119.25 ナイラ、1 円=1.20 ナイラ、2008 年 11 月）

2 - 3 活動実績

すべての活動は下記のとおり、おおむね計画どおりに実施されている。現在の段階ではこれらの活動は、成果の達成に十分に貢献するものと予測される。

2 - 3 - 1 調 達

- ・NCWDのオフィス機器、プロジェクト事務所の機材（PC、プリンター、プロジェクター、コピー機、ビデオ、車両）（2008年5月）
- ・女性開発センター（WDC）コースのための運用機材（ミシン、機械編み機、製粉機、等）（2007年9月）
- ・管理用機材（キャビネット、ファイリング用ケース、文具、等）（2008年1～2月）

2 - 3 - 2 研 修

内 容	時 期	場 所	対 象	人 数
マネージメント研修	2007年7～8月 （2回）、2008 年1～3月	カノ	コミュニティ開発局 長（HOD）、女性開発 オフィサー（WDO）、 SMWA、WDC 校長	30名
国別研修	2007年9月	日本	NCWD	4名
国別研修	2008年7月	日本	NCWD、SMWA	各2名、計4名
集団研修	2008年8月	日本	NCWD、SMWA	各1名、計2名
基礎 PC/IT 研修	2007年11～12 月	アブジャ	NCWD 8名、SMWA 6 名	14名
調査手法研修	2008年1月	カノ	NCWD、SMWA	14名
スキルアップ研修（食 品加工）	2008年2月	カノ	WDC 講師	35名
スキルアップ研修（ミ シン、刺繍、編み機）	2007年7月	カノ	WDC 講師	30名
ビジネスマネージメ ント研修	2008年8月	カノ	SMWA、HOD、WDO、 WDC 校長	30名
メンテナンス研修（ミ シン、編み機）	2008年7月	カノ	講師、参加者	213名
PC 研修（Word、Excel、 PowerPoint）	2008年9月	アブジャ	NCWD	5名

2 - 3 - 3 調 査

内 容	時 期	備 考
ベースライン調査	2007年2月	短期専門家（組織分析、社会調査）が支援
モニタリング調査	2007年8月 2008年4月	長期専門家によるモニタリング調査結果報告書作 成、プレゼンテーション（3回：2007年9月、2008

	2008年10月	年4月、2008年11月)
グッドプラクティス収集	2008年5~6月	短期専門家(グッドプラクティス調査)が支援

2-3-4 ワークショップ、スタディーツアー、その他

内 容	時 期	内 容	時 期
アクションプラン策定ワークショップ(2008年度)	2008年1月	第3回JCC	2008年5月
スタディーツアー (Zamfara州WDC)	2008年2月	ニュースレター作成 HP、プロジェクトカレンダー・ポスター作成、パンフレット作成	
ラジオ放送による意識化促進	2007年2~4月	運営指導調査団	2008年2月
卒業生支援ワークショップ	2008年4月	カノ州地方行政区(LGA)リーダーへのアドボカシー	2008年8~9月
機材に関する調査	2008年6~7月	スタディーツアー(服飾学校、女性協同組合)	2008年8月
PDM改訂(第2回JCCで承認)	2007年12月	第1回ガイドラインフォーラム	2008年10月
第1回JCC	2007年5月	中間評価ワークショップ	2008年8月
第2回JCC	2007年12月		

2-4 成果の達成状況

活動は順調に進捗している。すべての成果達成の見込みは高い一方、WDCへの機材の提供や卒業生支援など、自立性確保を促すためのLGAによる活動の継続が必要である。

下記は中間評価調査時の聞き取り調査、プロジェクトでの3度のモニタリング調査、専門家による進捗報告書を基に分析を行った結果である。

2-4-1 成果1

1-1 WDCのサービスの質の向上の達成度

1-1-1 WDC参加者が見たWDCのサービスの質への満足度

3度のモニタリング調査と聞き取り調査によれば、満足度は向上している。

(1) WDCカリキュラム

現在、各WDCは独自のコース計画とシラバスを採用している。WDC参加者のカリキュラムへの満足度は高いが、WDCからは統一カリキュラム開発の要望が出ている。

(2) WDC講師

プロジェクトによるスキルアップ研修等を通じ、講師の能力は向上している。しかし、WDC参加者の返答では、モニタリング調査と聞き取り調査では意見が分かれる。

講師への満足度は第3回モニタリング調査では68～84%(100%を完全満足度として)となっている。一方、聞き取り調査では、講師の質は不十分あるいは講師人数の不足を指摘する意見もあった。

(3) 施設

満足度は25～57%であった。

(4) 卒業生支援

2008年8月にビジネス研修が実施され、回転資金方式による機材の提供が検討されてきた。満足度は26～49%となっている。

(5) 機材

機材への満足度は高く、70～83%となっているが、他方、参加者の増加による機材の不足が生じる可能性も懸念している。

(6) 製作用の資材

その多くはLGAからの予算、参加者からの持参品で調達されている。モニタリング調査の結果では、その満足度は3～30%から55～72%へ上昇している。WDCからLGAへの材料調達の要望への対応は以前より早くなっている。

1-1-2 WDCでのサービスに対する女性のニーズ把握の改善

いくつかのWDCでは、参加者の登録時に要望調査を行うなどアドホックベースでの努力はなされているが、今後も体系的なニーズ把握の努力を講じる必要がある。

1-2 コミュニティからWDCへの肯定的認識の向上の達成度

コミュニティ、参加者の夫、非WDC参加者からのWDC活動への認識は高まっている。

1-2-1 コミュニティ、参加者の夫、非参加者からのWDCの活動への認識

モニタリング調査によれば、それぞれ認識は下記のとおり高まっている。

(1) 夫：90～98%(100%を最高の満足度として)

(2) コミュニティ：91～97%

(3) 非WDC参加者：81～93%

聞き取り調査では60%の返答者が夫からの認識、80%の返答者がコミュニティからの認識の高まりを指摘した。

1-2-2 WDCのサービスに対するコミュニティからのニーズ把握の改善

いくつかのWDCでは、WDOがコミュニティを巡回してニーズ調査を行うなど、アドホックベースでの活動はみられるが、今後はより体系的なニーズ把握の努力を講じる必要がある。

1-2-3 WDC参加者のエンパワーメントへの継続的な改善

中間評価段階では実質的なWDCでの活動開始から1年間弱であり、判断は難しい。2009年1月～2月に予定されているエンパワーメント調査の結果と今後の継続的なモニタリングにより、終了時評価での判断に委ねることになる。

1-3 WDC のマネージメントの質の向上の達成度

モニタリング結果の比較より、マネージメントの質は向上しており、重要性への理解も高まっていることが確認できる。また、年間計画、記録管理の改善がみられる。

1-3-1 WDC のマネージメントの質の向上の達成度

WDC のマネージメントの重要性は認識されている。返答者は下記のような改善を指摘した。

- (1) 労働環境：63～100%
- (2) 管理記録・ファイリング：27～93%
- (3) 報告・フィードバック：0～71%

1-3-2 WDC のマネージメントの質の向上のための重要な要素の改善度

返答者からみた改善の度合い：

- (1) 職員配置：54～85%
- (2) 予算：14～71%
- (3) リーダーシップ：83～100%
- (4) 意思決定：45～82%

6 地区の WDC 校長と WDO によれば、マネージメントのなかでも特に記録簿管理が大きく改善し、以前に比べ WDC のスムーズな運営に貢献している。

2 - 4 - 2 成果 2

ガイドライン案の第 1 版草案は 2008 年 9 月に完成し、1 章が 2008 年 10 月のガイドラインフォーラムで発表された。ガイドラインは 2009 年 11 月に完成予定である。

2 - 4 - 3 成果 3

プロジェクトチームメンバーの能力はプロジェクト実施やさまざまな研修機会、ワークショップの参加、日本人長期・短期専門家との日々の活動を通じて向上している。ただし、個人差があるのが現状であり、更なる能力強化が必要である。

プロジェクトチームメンバーの自己評価（前者％）と日本人専門家による評価（後者％）は下記のとおりであり、多少の差がみられる。

- (1) 計画能力：77％、60％以下～85％
- (2) プロジェクト実施能力（フィールド調査含む）：83％、65～85％
- (3) 管理能力：75％、60％以下～85％
- (4) 報告書記述とプレゼンテーション能力：56％、60％以下～85％

2 - 5 技術移転状況

技術移転は3つのレベルにおいてさまざまな方法で実施されてきた。その主な内容は下記のとおりである。

- 1) NCWD：調査手法研修、IT/PC 研修
- 2) SMWA：マネージメント研修、スキルアップ研修
- 3) WDC/LGA：マネージメント研修、スキルアップ研修

以上の研修内容や方法は、プロジェクトチームメンバーや LGA/WDC 職員には高く評価されている。

2 - 6 プロジェクト実施体制

プロジェクトマネージメントの組織と体制は NCWD、SMWA と LGA/WDC の3レベルを連携、調整する形で適切に実施されてきた。

プロジェクトチームメンバーは NCWD 6 名、SMWA 4 名、計 10 名が配置されており、その人数はプロジェクトの実施には適切である。一方で、計画、プロジェクト実施、モニタリング・評価、特に文書作成やプレゼンテーション能力の点では更なる強化が必要である。

JCC は半年ごと、これまでに 3 回開催され、その目的であるマクロレベルのジェンダー平等の情報やプロジェクト進捗のための情報共有の機能を適切に果たしている。また 3 ヶ月ごとの定例ミーティングも適切に行われている。ミーティングの目的は長期専門家とプロジェクトメンバー間のスケジュールと責任分担の確認である。これに加え、必要に応じ随時、専門家とメンバーの間で打合せが行われている。

プロジェクトのモニタリング調査は活動の進捗を測るために半年ごとに既に 3 回実施され、利害関係機関には情報共有とフィードバックが行われてきた。

第3章 評価結果

3 - 1 妥当性

本プロジェクトの妥当性は非常に高い。

プロジェクト内容は2006年に発表されたナイジェリアの国家ジェンダー政策に合致している。この政策はナイジェリアの貧困削減へのアプローチとしてジェンダー主流化を謳っているものである。また2006年に全国女性評議会が採択したコミュニケにおいて、全国的女性開発センター(WDC)の活性化に関するガイドラインの作成が本プロジェクトのカウンターパート(C/P)機関である国立女性開発センター(NCWD)のマンデートであることが明記されており、その点においてもNCWDを支援することは妥当性が高い。

また本プロジェクトは日本のODA大綱での貧困削減への支援、並びに外務省・JICAの国別支援の重点課題のうち、女性のエンパワーメントにも一致していることから妥当であると判断される。

カノ州がパイロット対象地域として選定された理由は、WDC活性化への意欲があったこと、ナイジェリア北部最大の商業地域として他地域への影響力が期待できることがあげられる。また、カノ州経済強化開発戦略(Kano State Economic Empowerment and Development Strategy: K-SEEDS 2005)において女性の生計向上のために女性の経済構造への参加促進をめざしており、州の方針とも合致している。

3 - 2 有効性

本プロジェクトの有効性は高く、今後もその効果は増加するものと判断される。

プロジェクト目標は明確に設定されており、現在までの努力が今後も続く限り、ほとんどの成果はプロジェクト終了時(2010年1月)までに達成が可能である。モニタリング調査や聞き取り調査において、参加者からのWDCのサービスの質、例えばカリキュラム、機材、生地や毛糸、教材などの資材への満足度は高い。

成果1の達成状況に関して、既にパイロット対象地域の6WDCでは数多くのグッドプラクティスが発現しており、下記の事例がみられる。

- 1) 新たなWDCの建設が村落部に予定されている。(Bichi)
- 2) 2007年に焼失したWDCへの機材が地方行政区(LGA)により新たに調達された。(Gwale)
- 3) LGAが各ワード(サブ区:全部で10サブ区)から女性各2名を選出し、WDCへの交通費を支援している。(Dambatta)
- 4) 参加者数の急増によりWDCの拡張が予定されている。(Kumbotso)
- 5) 女性開発オフィサー(WDO)がWDCでの訓練コースの要望を聞くために家庭訪問をしている。(Gaya)
- 6) WDCの収入創出のため、養鶏を行っている。(Gezawa)

WDC校長やWDO、WDC講師は、プロジェクトによるWDCのマネジメントの改善、例えば、生徒の登録簿、出席簿、機材管理簿等の各種記録簿を作成・管理するための研修への参加に、大変満足している。

また、コミュニティ、夫、WDC非参加者のWDCに対する好意的な認識も高まり、コミュニテ

イリーダーや夫たちは女性に対して、WDCでの活動に参加することを奨励する動きが出ている。同時に WDC が学びの場、スキルアップの場として理解され、参加者や参加希望者が急増している。この結果、いくつかの LGA では WDC の新設や拡張、活動予算の増加を実施ないしは計画している。

成果 2 に関して、WDC 活性化のためのガイドラインは、第 1 章ドラフトが 2008 年 10 月に全国レベルで開催されたガイドラインフォーラムにて発表された。2009 年 11 月に全編が完成の予定である。

成果 3 に関して、プロジェクトチームメンバー（NCWD とカノ州 SMWA 職員で構成される）の能力強化は順調に推移しているものの、その能力には個人差がみられるのが現状である。

3 - 3 効率性

本プロジェクトの効率性は高い。

本プロジェクトへの人的投入は長期専門家 1 名、短期専門家 7 名と比較的小規模であり、機材の投入数やコストも他の案件に比して相対的に小さい。しかし、開始後 2 年未満にもかかわらず、本プロジェクトでは既に多くのグッドプラクティスが発現するなど、期待以上の成果を生み出ししており、その効果は WDC だけでなくコミュニティ全体にも波及している。

ナイジェリア側、日本側からの投入はともにほぼ計画どおりに進捗し、両者の努力により、成果達成に結びついている。投入はコミュニティへの好影響のみならず、WDC 参加者の夫が WDC の重要性をより一層認識する結果となっている。

長期専門家と短期専門家による技術移転は日々の指導、計画策定やプロジェクトの実施を通じて行われているが、その手法も C/P の自信の向上につながる結果となっており、技術移転の方法は適切に行われている、と判断される。

その反面、特に中央レベルの C/P 機関である NCWD の予算確保が困難な状況にあり、プロジェクトの進捗あるいは成果達成への阻害要因となる可能性がある。ナイジェリア側により、C/P ファンドが早急に確保されることが望ましい。

3 - 4 インパクト

プロジェクト実施のインパクトは非常に良好であり、現在までの努力が今後も継続され、外部条件が整うならば、プロジェクト目標は達成される見込みが大きい。

WDC の活性化により、LGA あるいはコミュニティや夫の、WDC への理解や認識が高まっている。例えば、夫が妻の WDC での受講に必要な交通費や諸経費を負担するという事例、LGA のコミュニティ開発局長（HOD）が WDC を視察訪問する機会が増える、WDC に手当する予算を増やすなど、肯定的な変化が数多くみられる。LGA によっては、参加希望者の増大に対応し、より多くの女性に WDC 活動への参加機会を増やすため、WDC の新設・拡張を実施・計画している例もある。

3 - 5 自立発展性

ガイドラインに基づき WDC が活性化され、活動の継続を担保する予算・人員の確保がなされる限り、自立発展性は期待できると予想される。その反面、今後のスムーズなプロジェクト実施とオーナーシップの確保のためには、ナイジェリア側が必要な予算を準備することが重要である。

NCWD 及び州女性社会開発省 (SMWA) のプロジェクトチームメンバー、WDO や WDC スタッフは、さまざまな調査、モニタリング活動、長期専門家や短期専門家からの指導、日本での研修やナイジェリア国内での各種研修により、個々の力量にばらつきはあるものの、それぞれスキルや知識の向上を成し遂げている。その一方で、計画策定・管理、時間管理、プロジェクト進捗監理や評価、また文書作成や発表などの能力に関しては、プロジェクト終了時までには更なる強化が必要である。

3 - 6 結 論

2008 年 10 月までの成果達成の状況、また評価 5 項目を基にした分析の結果から、プロジェクトは非常に成功裡に進捗しており、このまま外部条件に大きな変更がなければ、終了時までにはプロジェクト目標とすべての成果の達成が可能である、と予測される。これは、ナイジェリア側プロジェクトチーム及び日本人専門家、双方の努力が結実しているといえる。

第4章 ジェンダー主流化の観点からの評価

ジェンダー主流化（Gender Mainstreaming）は1995年、北京で開催された第4回世界女性会議を契機に、政府や国際機関によって推進されるようになったアプローチである。1997年の国連経済社会理事会（ECOSOC）の決議では、ジェンダー主流化とは、「あらゆる分野のすべてのレベルの政策（法律、政策、プログラム）の実施が、女性と男性に与える影響を評価する（assessing）過程である」とされており、「女性と男性が平等に便益を受け、不平等が持続しないよう、政治、経済、社会すべての分野における政策やプログラムを、計画・実施・モニタリング・評価するという一連の側面に、女性及び男性の関心と経験を統合する戦略である」と定義されている。このようなジェンダー主流化への取り組みは、国連特別総会2000年女性会議で採択された政治宣言及び成果文書で、更に明確に各国政府の公約として位置づけられている。

今回の調査では、5項目評価に重点が置かれているが、本案件は上位目標を女性のエンパワメントと設定し、ジェンダーの視点に立った活動を実施していることから、試行的にジェンダー主流化の観点からの評価も行った。調査内容に関しては田中由美子国際協力専門員の助言を受け、「政策の変化」、「公務員の意識・態度の変化」、「裨益者の意識・態度の変化」の3項目に分類し、 に関しては連邦レベル、州レベル、地方行政区（LGA）レベルの変化を、 に関しては女性開発センター（WDC）参加者とその夫、コミュニティの人々の変化について観察した。なお、本評価結果は、プロジェクト専門家からの資料、プロジェクトでのモニタリング調査、評価団員による現地での情報収集に基づくものであるが、時間の制約もあり、現地での協議事項には含めなかった。したがって、以下の分析は必ずしもナイジェリア側の意向を反映したものではなく、あくまでも評価団による分析・考察であるが、今後の評価の際に参考となれば幸いである。

4-1 政策の変化

(1) 連邦レベル

ナイジェリアにおいては、ジェンダー平等が保障された1999年制定の新憲法に基づき、2000年には国家女性政策が、2006年には国家ジェンダー政策が発表され、連邦レベルにおけるジェンダー平等推進の枠組みは整いつつあるといえる。1989年に設立された全国女性委員会が1995年に連邦女性・青年開発省に昇格し、2004年には連邦女性社会開発省（FMWA）に改編され、ナショナルマシーナリーとして機能している。また、州レベルにも女性社会開発省（SMWA）が設置されているが、ナイジェリアは連邦共和制であり、州政府の独立が強く、プロジェクト活動の現場であるWDCはLGAが管轄しているため、連邦レベルの政策にWDC活性化に関する記述を取り入れるのは困難であり、政策上の変化を測るのは難しい。ただ、2008年のFMWA大臣によるプレスブリーフィングでWDC活性化について述べられるなど、プロジェクトの認識は進んでおり、全国ガイドラインフォーラムを開催したことで、他州のSMWA・地方行政省にもWDC活性化への関心が生まれている。

(2) 州レベル

カノ州では2005年にカノ州経済強化開発戦略を策定し、前述(1)と同様の理由からWDC活性化には直接触れていないものの、女性に焦点を当てた活動を推進している。2008年の本邦研修にカノ州SMWA職員2名が参加したが、訪問した国立女性教育会館（NWEC）に感銘

を受け、同様の機能をもつ州立多目的 WDC をカノ市に建設する計画を進めている。土地、予算ともに既に確保済みとのことで、州レベルでの予算計画や運営方針に変化がみられている。また、SMWA 長官が州内の全 WDC を視察し、対象地区 WDC の良いインパクトを確認していることから、SMWA として WDC 活性化への役割を検討し直している。

(3) LGA レベル

LGA レベルでは予算に関する変化、WDC への通学促進のためのシステムづくりが多くみられた。例えば、いくつかの LGA では WDC への予算が増額され、活動のための材料や備品が以前よりも提供される、WDC の増設・拡張計画や卒業生支援の実施を検討していることが確認できた。また、新しい取り組み事例として、ダンバッタ地区では 10 の小地区から区長が女性を 2 名ずつ選び、WDC に通うための交通費を支給している。WDC 支援のみならず、卒業生や女性協同組合への支援、近隣のユースセンター（若者向けの職業訓練校）への女性の通学援助など、女性の活動に焦点を当てた予算配分や活動計画を作成するというポジティブな変化を確認することができた。

4 - 2 公務員の態度・意識の変化

(1) 連邦レベル

カウンターパート (C/P) 機関である国立女性開発センター (NCWD) のプロジェクトメンバーに関して、プロジェクト開始前はジェンダー課題への知識がほとんどなかったが、カノでの活動を通じて草の根レベルの女性に触れ、女性にとって、教育、クレジット、情報、移動性が限られていること、性別役割分業など、ジェンダー不平等の現実について理解を深めることができた。また、国別研修に NCWD から 6 名が参加したことで、職務意識やコミットメントが増大した。

(2) 州レベル

カノ州 SMWA 職員は WDC を監督する立場でありながら、プロジェクト実施前は WDC を訪問する機会がなく、WDC の現状や活動、運営の問題点について理解や職務意識が低かった。しかしプロジェクト活動を通じて WDC スタッフとのネットワークができ、活動に協力的に取り組むようになってきている。また、パイロットサイトでのマネージメント研修を対象外 WDC でも導入することを検討している。専門家の随行なしで自主的に WDC を巡回することはまだできていないが、先述のとおり、国別研修参加を通じて州立 WDC 建設計画をもつなど、積極的にアイデアを出し、実現するための働きかけができるようになったのは前向きな変化である。

(3) LGA レベル

LGA レベルでの関係者の態度・意識の変化が最も大きいという印象をもった。まずコミュニティ開発局長 (HOD) が WDC 活動に興味をもつようになり、定期的に WDC を訪問する、WDC の毎月の会議に参加する、また、WDC 活動の重要性について地方行政区長を説得するようになり、結果的に予算の増大、コミュニティの男性からの認識向上につながっている。今回、調査団が WDC を訪問した際も各地区でセレモニーが行われ、地方行政区長や HOD、

宗教リーダーが WDC に理解を示し、催しにも積極的に参加している様子を確認することができた。

次に、女性開発オフィサー (WDO) は LGA に所属し、WDC に指導を行う役割を担っているが、これまでは業務にコミットしても LGA が WDC 運営に興味がないために評価が得られず、意欲が低下していた。しかし、プロジェクトが軌道に乗ると地方行政区長を WDC に招き、活動の成果を見せることで WDC に関心をもたせ、LGA に対して教室拡張を依頼する、コミュニティの富裕層を訪問し、WDC への寄付を募るなど、職務への意欲が増し、積極的な働きかけをするようになった。このような活動が上層部を動かし、LGA では今後、WDO や校長を予算計画時のメンバーにすることも検討している。また、プロジェクト開始当初、WDO は本邦研修の対象者とは見なしていなかったが、現場レベルでの予想以上の成果に、2009 年度は WDO を研修員として派遣することをプロジェクトが決定したことは、彼女たちのポジティブな変化を表している。

また、WDC 講師についても意欲の向上がみられている。スキルアップ研修やスタディーツアーを通じて、自身の技術を高めたいという気持ち生まれ、WDC 活動改善のためのアイデアを発信するようになった。また、プロジェクトによって実施されるワークショップによって、人前で発言することに自信をもつようになってきている。習得した技術を WDC に通っていない女性たちにも伝え、地域に貢献しているという誇りをもったという感想も聞かれ、意識が大きく変化していることが分かる。

4 - 3 裨益者の態度・意識の変化

(1) WDC 参加者

以前は漫然と WDC に通っていたが、プロジェクトが活発になるにつれ、技術の習得や他者との交流から、将来は小規模ビジネスを興したい、女性協同組合を結成したいなど、未来のビジョンをもてるようになった。経済的に自立すれば家計を助けることができ、夫に依存しなくてもよいことを学び、自信をもつなど、エンパワーの兆しがみえる。

また、プロジェクトが実施した啓発活動のなかで WDC に通うことの利点を発表するため、自主的に芝居を準備・上演し好評を博した。アイデアを出す、意見を述べる、表現することに物怖じせず積極的に取り組むようになったのは大きな変化である。

ただ、宗教的背景もあり、女性が男性に従属的な立場であることに対する意識変化は乏しく、WDC での学びが家庭に貢献するという認識にとどまる。男性と女性の関係性について構造的な変化をもたらすには時間がかかることも事実である。

(2) WDC 参加者の夫

妻が WDC で習得した技術を活用して現金収入を得たり、家庭内のマネージメントをよりよくこなすのを見て夫は感謝するようになり、妻が継続して WDC に通うことを経済的にサポートしている (交通費、マシン購入、材料購入など)。以前に比べ、彼らは WDC に対してより好意的な認識をもち、女性の教育や経済的自立に理解を示し、他の男性にも妻を WDC に通学させることを勧めるようになってきている。WDC の拡張を LGA に直談判する男性もいたとの回答もあった。また、夫婦間のいさかいが減ったという報告もあり、男性にとっても WDC 活性化は良い変化をもたらしている。

(3) コミュニティの人々

WDC 参加者のポジティブな変化を見ており、コミュニティ全体で女性の教育や社会経済活動への理解が進んでいる様子が感じられた。特に、LGA のみならず、LGA を更に細分した小地区の長といった地域リーダー、宗教リーダーを巻き込んだ変化が著しい。WDC に通っていない女性は参加者のようになりたいたいと思ひ、その夫も妻を WDC に通わせたいと思うことから、入学者が急増しており、スペースの制約から人数制限を設けざるを得ない WDC もある。前述のとおり、社会的なジェンダー構造の変革には至らないが、その素地が形成される芽は育っているといえる。

4 - 4 ジェンダー主流化推進に果たす本プロジェクトの役割と今後の課題

連邦レベル、州レベル、LGA レベルともに何らかの変化がみられ、特に LGA レベルの変化は予想以上に大きく、ポジティブであった。前述のとおり、ナイジェリアは連邦制であり、州や地方政府の独立性が強いため、何らかの政策を推進しようとしてもトップダウンで実施することは非常に難しい。ジェンダー政策に関しては地域ごとの宗教的背景や意識の違いもあり、より挑戦的な課題であると思料される。しかし、本プロジェクトにおいては、対象地区の WDC が活性化するにつれて WDC 参加女性が他の女性よりもエンパワーされている事実、WDC が地域に必要であるという認識が夫、コミュニティ、ひいては LGA にも広がり、SMWA の WDC へのコミットメントの変化、FMWA の WDC への関心拡大に結びついている。この「WDC 参加者の変化」「夫・コミュニティの変化」「LGA の変化」「州の変化」「FMWA の認識向上」という図式は、「現場からのジェンダー主流化」の萌芽が育っていることを示している。

一般的にジェンダー主流化推進は中央レベルが中心となっていく例が多いが、本プロジェクトは草の根レベルのムーブメントが地方政府、さらに上層機関を動かしたボトムアップの成功事例として、類似案件への教訓となると考えられる。

その一方で、今後、このような WDC 活性化の動きを連邦レベルでのジェンダー主流化政策に、だれが、どのようにつなげていくのが課題としてあげられる。NCWD がイニシアティブを取り、将来、WDC 活性化を国家ジェンダー政策内に位置づける、もしくは全国女性評議会の決議事項としてコミュニケに盛り込むことで上位政策とすることが理想ではあるが、現段階ではまだ方向性は固まっていない。FMWA がジェンダー主流化のために今後どのように WDC を活用したいのかという意向の確認、NCWD のマンドートの明確化が求められるだろう。

第 5 章 PDM の修正と今後の活動への提言

5 - 1 PDM 修正

5 - 1 - 1 変更点

- 上位目標、プロジェクト目標なども大きな変更はない。
- 実態上、既に活動している、もしくは計画中のもので、プロジェクト目標の達成に必要なものを明記し、不要となったものを削除した。

変更点	変更後
成果 1 対象地域においてパフォーマンスのよい WDC のグッドプラクティスが生み出される。パフォーマンスは、WDC の質の向上、WDC への肯定的認識の向上、WDC のマネジメントの質の向上の 3 点で定義される。	成果 1 「WDC が活性化される」
成果 1-1 に対する活動 1-1-3 Develop the action plan to run WDCs based on the result of baseline survey 1-2, 2-1 and 3-1 and the previous year's result	PDM 上は残すが、アクションプランワークショップの 2009 年度会合を PO から削除。
成果 1-2 に対する活動 1-2-2 Organize and conduct the advocacy to raise awareness on gender issues and public relations on WDCs in the selected LGAs	「Advocacy」と「Sensitization」を分けて活動に記入。 1-2-2 Conduct the advocacy to policy makers in the pilot sites to raise awareness on WDC activation 1-2-3 Sensitize people in the pilot sites to raise awareness on gender issues and WDC activation
	エンパワメント調査を活動に加える。 1-2-6 Conduct a qualitative survey about the impacts on women's empowerment by WDCs activities
成果 2 に対する活動 2-3 Organize the workshop to develop the WDC guideline with all stakeholders in the project sites	・各州へのアドボカシーを活動に追加。 2-3 Conduct the advocacy to other states to raise their awareness on WDC activation and to involve them into the WDC guideline forum ・他州のグッドプラクティス収集を活動に加える。 2-5 Collect good practices from other states and reflect them into the draft guideline ・活動 2-3 を削除

5 - 1 - 2 プロジェクト目標の「Guiding Framework」の定義を共有

2007年12月のJCCにて改訂されたPDMのプロジェクト目標内で示す「Guiding Framework」について、プロジェクトメンバーの認識を共有した。

Guiding Framework の定義：

「ガイドライン（指針）に基づいて、WDCが活性化され、その活性化を継続できる人材と予算が配置されることでWDCが恒常的に活性化するという枠組み」

“the `guiding framework` is not limited to the guideline as a product delivered from the Project Outputs, but encompasses a state with adequate capacity of personnel and budget of concerned authorities in order to realize activation of WDC in their respective state.”

注：プロジェクトでは州の人材と予算の措置をコントロールできないため「Guiding」とした。

Guidingの意味合いは「あるべき姿を提案する」。

5 - 2 今後の活動への提言

(1) プロジェクトメンバーの更なる能力強化の必要性

プロジェクトメンバーである、国立女性開発センター（NCWD）とカノ州女性社会開発省（SMWA）の職員は活動を通じて、調査の技術・能力の向上がみられている。しかしながら、NCWDは今後、女性開発センター（WDC）運営に関するガイドラインを作成し、他州への普及活動を視野に入れていることから、調査のみならず、メンバーの計画・マネジメント能力、文書作成やプレゼンテーション能力の向上も必須である。また、SMWAはWDC活性化のための現地活動を担っており、地方行政省や地方行政区（LGA）、WDCとの調整能力やリーダーシップも必要である。自立発展性の視点からも、プロジェクト後半の活動は係る能力強化に重点を置いた活動が望まれる。

(2) プロジェクトメンバーが主導する活動の拡大

長期専門家の強いリーダーシップによって、プロジェクトが計画どおり実施され、予想以上の成果を生み出している事実は高く評価できるものの、プロジェクトメンバーが長期専門家に依存してしまい、自主的な活動ができていない場合があるように見受けられる。長期専門家の適切な技術指導によってメンバーの能力やモチベーションは向上していると思われることから、今後は6ヵ月ごとに行われるモニタリング調査・分析作業をメンバーのみで実施するなど、段階的な活動のハンドオーバーが自立発展性を担保すると思料する。

(3) プロジェクト活動への地方行政省、LGAの参加促進

カノ州の地方行政省、LGAはプロジェクトのカウンターパート（C/P）ではないが、JCC会合のオブザーバーとして承認されている。今回の評価調査において両機関のWDC活性化への認識の向上、予算確保への前向きな取り組みが確認されており、今後のプロジェクト展開への鍵を握っていることから、プロジェクトへの更なる関与が望まれる。

(4) ローカルコスト問題の改善

プロジェクトメンバーのカノ州出張時の日当・交通費がNCWDより適切に支払われてい

ない、という問題は以前から指摘されており、前回の JCC 会合において M/M に盛り込まれたものの、状況に変化がない。迅速な解決が求められる。

(5) 女性のニーズを把握する仕組みづくりの重要性

プロジェクトは WDC を活性化することで女性のエンパワーメントをめざしている。現在は裁縫や編み物、食品加工等の技術を習得することで、小規模ビジネスの開始や女性協同組合の結成を推奨し、経済的エンパワーメントを主眼に置いた活動を展開しているが、中長期的に考えると、同じ技術をもった女性の地域での増加は競争を生み出す可能性があり、必ずしも経済的な恩恵をもたらさない。将来、女性のニーズは多様化することが予測されるため、それらを適切に把握して WDC 活動に反映できるような仕組みづくりが重要になるだろう。

第6章 団長所感

ナイジェリアは連邦制で、州の自治が強い。本プロジェクトの直接のカウンターパート機関は国立女性開発センター（NCWD）であるが、プロジェクトの活動現場はカノ州女性社会開発省（SMWA）傘下の女性開発センター（WDC）である（R/DはNCWDと署名し、カノ州SMWA事務次官がWitnessとして署名）。連邦と州の力関係を注視しつつ、それぞれの立場を尊重しつつ、協力の枠組みや活動内容を検討すべきであることは、本件に限ったことではないであろう。

今回の中間評価で感じたのは、本プロジェクトが高い成果を出していること。これに伴い、地方行政区（LGA）の本プロジェクトへの期待が高まり、LGAのかかわりが増えつつあること。それに比してNCWDの実施体制が未だ脆弱であることである。

LGAのかかわりに関しては、調査結果でも触れているように、多くの事例を確認できた。各種コースの受講希望者が増加して既存の建物が手狭になったため、LGAの予算で増築に係る用地が取得され、増築分の建設が進んでいる、午前と午後の2度に分けてクラスを実施している、選挙時に焼き討ちにあったセンターの施設が1年以内に修復され、焼失した機材も補填され、追加の設備も設置されている、等である。

今回、6センターのうち3カ所を訪問したが、すべてLGAの長による歓迎セレモニーが開かれ、1カ所ではイマーム（宗教指導者）によるスピーチも行われた。女性のみならず、地域住民にセンターの活動が受け入れられているという印象をもった。このようなLGAのかかわりにより、WDCがますます活性化し、活性化したことを受けて更にカノLGAのかかわりが増える、という良い循環が生まれているように見受けられた。

本プロジェクトの目標は、現場での良い成果をベースとしたWDC活性化ガイドラインを作成し、WDCでガイドラインが機能する枠組み（人員、予算）が整う見通しが立つことである。ガイドラインは既に第一ドラフトが出来上がっており、プロジェクト目標達成の見通しは明るいといえる。

しかし、NCWDのかかわりは、調査団滞在中には残念ながらあまり感じ取れなかったのが正直なところである。センター職員によっても意識の差はあり、自発的にプロジェクト業務にかかわろうとする職員もいるが、多くはプロジェクト専門家に依存しているという印象をぬぐえない。無論、問題は職員の意識だけでなく、連邦が慢性的に予算不足に陥っていることもあげられる。センターにおいても、職員がカノ州に出張する旅費すら支払いが滞るようで、職員の意欲が減退するのやむをえないと考えられる。

今後、ガイドライン取りまとめ、全国レベルへのガイドライン周知、アドボカシー等、連邦が主体となるべき業務の比重が増えていく。専門家が1人にかかる作業をすべて行うことのないよう、注視が必要である。

本プロジェクトは2010年1月で終了予定であり、ナイジェリア政府からはフェーズ2の要請が出されている。フェーズ2は、現行フェーズの成果をカノ州の他センター及び他州に展開することがねらいとなっている。展開はNCWDの職務であるが、現在の実施体制、職員の力量ではナイジェリア側のみで他州へ展開できるか心もとなく、その意味で支援の必要性は高いといえる。カノ州でせっかく生まれている良い成果をカノ州のみにとどめるのではなく、連邦全体に展開する見通しが立つところまで支援することが大切だと考えられる。

付 属 資 料

- 1 . 協議議事録 (Minutes of Meeting)
(投入実績表、評価グリッド、修正 PDM を含む)
- 2 . 評価グリッド (和文)
- 3 . 面談録

1. 協議議事録 (Minutes of Meeting)
(投入実績表、評価グリッド、修正PDMを含む)

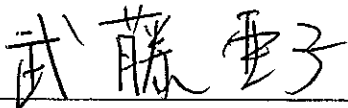
MINUTES OF MEETING
BETWEEN
THE JAPANESE MID-TERM EVALUATION TEAM
AND
THE GOVERNMENT OF THE FEDERAL REPUBLIC OF NIGERIA
ON
JAPANESE TECHNICAL COOPERATION
FOR
PROJECT ON ACTIVATION OF THE WOMEN DEVELOPMENT CENTRES (WDCs) TO
IMPROVE WOMEN'S LIVELIHOOD

The Japanese Mid-term Evaluation Team (hereinafter referred to as "the Team"), organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") headed by Ms. Ako MUTO, visited the Federal Republic of Nigeria from 10 November to 27 November 2008 for the purpose of the mid-term evaluation of "the Project on Activation of the Women Development Centres (WDCs) to Improve Women's Livelihood" (hereinafter referred to as "the Project").

During its stay in Nigeria, the Team had a series of discussions with the Nigerian authorities concerned, jointly evaluated the achievements of the Project, and exchanged views for further improvement of the Project.

As a result of the study and discussions, both sides agreed upon the matters referred to in the document attached hereto.

Abuja, 26 November 2008



Ms. Ako MUTO
Leader
Japanese Mid-term Evaluation Team,
Japan International Cooperation Agency,
Japan



Dr. A'isha Usman Mahmood
The Director-General
National Centre for Women Development,
Federal Republic of Nigeria

Witnessed by



Arc. Aminu Sani
Permanent Secretary
Kano State Ministry of Women Affairs and
Social Development

ATTACHED DOCUMENT

Mid-Term Evaluation Report

on

Japanese Technical Cooperation Project

on

**ACTIVATION OF WOMEN DEVELOPMENT CENTRES TO IMPROVE
WOMEN'S LIVELIHOOD IN NIGERIA**

AW 26/11
D-G

26 November 2008

Japan - Nigeria

AW

AW

TABLE OF CONTENTS

List of Abbreviations and Acronyms

1. INTRODUCTION.....	3
1-1. Preface	
1-2. Objectives of Evaluation	
1-3. Schedule of the Evaluation Team	
1-4. Members of the Evaluation Team	
1-5. Methodology of Evaluation	
2. EVALUATION.....	6
2-1. Achievement of the Project	
2-2. Results of the Evaluation	
2-3. Conclusion	
3. RECOMMENDATIONS.....	11
4. REVISION OF PROJECT DESIGN MATRIX (PDM).....	12

ANNEXES

ANNEX 1. Inputs to the Project

- 1-1. List of Japanese Experts
- 1-2. List of Machinery and Equipment Provided by JICA (Office)
- 1-3. List of Machinery and Equipment Provided by JICA (WDCs)
- 1-4. List of Counterpart Training in Japan
- 1-5. List of In-Country Training
- 1-6. List of Nigerian Counterparts (NCWD and SMWA)
- 1-7. List of Nigerian Counterparts (LGA and WDCs)
- 1-8. List of Land, Buildings and Facilities
- 1-9. List of Actual Expenditure

ANNEX 2. Evaluation Grid

ANNEX 3. Project Design Matrix (Revised)

Handwritten signature
26/11
D-G

Handwritten mark

Handwritten signature

ABBREVIATIONS and ACRONYMS

DAC	Development Assistance Committee
DG	Director-General
FMWA	Federal Ministry of Women Affairs
HOC	Head of Women Development Centre
HOD	Head Of Department, Community Development Department, Ministry of Local Government Area
JICA	Japan International Cooperation Agency
LGA(s)	Local Government Area(s)
M/M	Minutes of Meeting
NCWD	National Centre for Women Development
NEEDS	National Economic Empowerment and Development Strategy
NPC	National Planning Commission
PCM	Project Cycle Management
PDM	Project Design Matrix
PO	Plan of Operation
PS	Permanent Secretary
R/D	Record of Discussion
SEEDS	State Economic Empowerment and Development Strategy
SMWA	State Ministry of Women Affairs and Social Development
WDC(s)	Women Development Centre(s)

AP 26/11
D-G

AP

AP

1. INTRODUCTION

1-1. Preface

This Project was executed in January 2007 by the signing of the Record of Discussions (R/D) between JICA and the Federal Republic of Nigeria. The duration of the Project is three (3) years. The terms of R/D state that the evaluation of the Project will be conducted jointly by JICA and the Nigerian authorities in the middle of the execution of the Project.

The Project has been in operation for approximately one year and ten (10) months. JICA dispatched the Team to the Federal Republic of Nigeria from 10 to 27 November, 2008 for the purpose of conducting the mid-term evaluation, which has been undertaken jointly by the Team and Nigerian authorities concerned.

1-2. Objectives of Evaluation

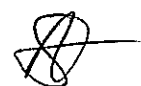
Objectives of the mid-term evaluation are as follows:

- (1) to review and evaluate the inputs, activities and achievements of the Project;
- (2) to clarify the problems and issues to be addressed for the successful implementation of the Project for the remaining period;
- (3) to assess the rationale for the continuation of the Project based on the review and evaluation;
- (4) to make recommendations for activities in the remaining period; and
- (5) to review and revise the Project Design Matrix (PDM) if necessity arises.

1-3. Schedule of the Evaluation Team

Date		Activities
10 Nov.	Mon	Meeting in JICA office Meeting with the long-term expert and NCWD members
11 Nov.	Tue	Moving to Kano Meeting with Kano SMWA members
12 Nov.	Wed	Data collection in BICHI LGAWDC
13 Nov.	Thu	Data collection in GAYA LGAWDC
14 Nov.	Fri	Data collection in GEZAWA LGAWDC
15 Nov.	Sat	
16 Nov.	Sun	
17 Nov.	Mon	Data collection in GWALE LGAWDC
18 Nov.	Tue	Workshop in Kano SMWA
19 Nov.	Wed	Data collection in DAMBATTA LGAWDC Courtesy call on Ministry of LGA
20 Nov.	Thu	Data collection in KUMBOTSO LGAWDC
21 Nov.	Fri	Meeting in the team

26/11
D-G
E



		Courtesy call on SMWA and State Government Visit to BICHI and KUMBOTSO WDC, welcomed by the Chairman of LGA
22 Nov.	Sat	Visit to Gwale WDC, welcomed by the Chairman of LGA Moving to Abuja
23 Nov.	Sun	Meeting in the team
24 Nov.	Mon	Meeting in JICA office Meeting in NCWD Courtesy call on Director General in NCWD Courtesy call on the Minister of Women Affairs
25 Nov.	Tue	PCM Workshop in NCWD Discussion on M/M
26 Nov.	Wed	4 th JCC
27 Nov.	Thu	Report to NPC, NCWD and Embassy of Japan Donor meeting, Report to JICA office

1-4. Members of the Evaluation Team

(1) Japanese Mid-term Evaluation Team

Ms. Ako MUTO	Leader	Director, Gender Equality Division, Public Policy Department, JICA
Ms. Megumi UEDA	Cooperation Planning/ Gender Analysis	Associate Expert, Gender Equality Division, Public Policy Department, JICA
Ms. Rie KAWAHARA	Evaluation Analysis	Consultant, Managing Director, R-QUEST Corporation

(2) Project Team

Mr. Woyengikuro Turner GEORGE	Project coordinator, NCWD
Ms. Kiyomi KAIDA	Japanese expert

R 26/11
D-G

Φ

[Handwritten signature]

1-5. Methodology of Evaluation

The evaluation is designed to verify the following aspects based on the PDM and Plan of Operations:

- 1) Achievements of the Project based on the PDM indicators
- 2) Implementation process
- 3) Five evaluation criteria of DAC

Definitions of the criteria are as follows;

Relevance	Relevance of the project plan was reviewed in terms of the validity of the project purpose and the overall goal in connection with the development policy of the Federal Government of Nigeria, aid policy of the Government of Japan, needs of beneficiaries, and by logical consistency of the project plan.
Effectiveness	Effectiveness was assessed by evaluating the extent to which the Project had achieved its purpose and by clarifying the relationship between the purpose and outputs.
Efficiency	Efficiency of the project implementation was analyzed with emphasis on the relationship between outputs and inputs in terms of timing, quality and quantity of inputs.
Impact	Impact of the Project was assessed on the basis of both positive and negative influences caused by the Project.
Sustainability	Sustainability of the Project was assessed in terms of political, institutional, financial and technical aspects by examining the extent to which the achievements of the Project would be sustained or expanded after the Project period.

<Sources of Information>

The following sources of information were used in this evaluation study:

- 1) Documents agreed by the both Nigerian and Japanese sides prior to and/or during the course of the Project implementation including:

- Record of Discussions (R/D)
- Minutes of Meeting (M/M)
- Project Design Matrix (PDM)
- Plan of Operations (PO)
- Monitoring survey results (3 times)
- Project progress reports by the long term expert,
- Project report by the short-term experts, and
- Others

- 2). Records of inputs from the both sides and activities of the Project;

26/11
DTG
[Signature]

- 3) Data and statistics which indicate the degree of achievement of the Outputs, which are the results of the Project, and the Project purpose; and
- 4) Interviews with and questionnaires to the Project's counterpart personnel (hereinafter referred to as "C/P"), the Japanese expert, and personnel in related organizations such as WDO and WDC staff and officials at the Kano state in Nigeria.

2. EVALUATION

2-1. Achievements of the Project

2-1-1 Inputs (Details are in Annex 1)

<Nigerian Side>

- (1) C/P allocation as the Project Team
- (2) Activity Cost and Equipment
- (3) Project Implementation/Management and Support Structure
- (4) Facilities

<Japanese side>

- (1) Long-term and short-term experts
- (2) Training in Japan
- (3) Training in Nigeria
- (4) Equipment
- (5) Local costs

2-1-2 Outputs

Output 1: Good practices of well-performing WDCs, which are defined by (i) improved service quality of the target WDCs, (ii) increased positive recognition to the target WDCs, and (iii) improved WDC management, are produced in the target state/LGAs

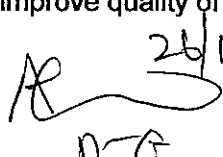


Output 2: Draft guideline is developed based on the compiled good practices.

Output 3: Capacity of the project team, which consists of NCWD and the Kano SMWA officials engaging in project implementation, is enhanced.

With the efforts of both the Nigerian and the Japanese sides, most of the planned activities have been implemented successfully, which is expected to contribute to the attainment of the Project Purpose. The status of the attainment of each output is as follows:

Output 1; Good practices of well-performing WDCs :

Almost all the activities have been completed so far, leading to improve quality of services

provided by WDCs, increase positive recognition on WDCs as a place of women's empowerment, and improve WDC management.

- (1) WDCs Participants' satisfaction with curriculum, equipment, working materials, lecture and instructor, facilities, and support to graduates, has been increasing every monitoring survey.
- (2) There are efforts at ad hoc base for capturing needs of women on WDC services and quality of the framework becomes better, but it is still necessary to make more efforts for systematic improvement.
- (3) Recognition among community, husbands of participants and non-WDC participants to activities of WDCs have been increasing throughout 3 times of monitoring surveys.
- (4) Importance of the WDC management is aware and improvements in working environment, filing and keeping record, reporting and feedback, staffing, budget, leadership, and decision making, are recognized.

Output 2: A guideline is revised/refined as scheduled in accordance with the Plan of Operation (Details are shown in Annex 3):

A guideline is revised /refined as scheduled in accordance with the Plan of Operation

- (1) Formulation of the draft guideline in September 2008
- (2) The 1st guideline forum in October 2008

Output 3: Enhanced capacity of the project team: (Details are shown in Annex 3):

Self-assessment of the Project team members (shown in %) and Japanese experts (the latter %) are as follows. There are differences between them. Capacity of the Project member varies from person to person, and there are still needs for further capacity development.

- (1) Planning: 77%, below 60% to 85%
- (2) Implementation of the Project (including the field survey): 83%, 65-85%
- (3) Management: 75%, below 60% to 85%
- (4) Report writing and presentation: 56%, below 60% to 85%

2-1-3. Project Purpose

An effective guiding framework for activation and management of the WDCs is established by NCWD based on the experience of the project and others

It is highly expected to achieve the Project Purpose as long as the current efforts continue. According to the present plan, guideline formulation based on the experiences of good practices in Kano state will be completed by November 2009. As stated in Output 2, the 1st draft of guideline was formulated, and chapter 1 of it was presented in the 1st Guideline Forum in October 2008.

Handwritten signatures and dates:
A [Signature] 26/11
D-G
[Signature] 1
[Signature]

2-2. Results of the Evaluation

The result of the evaluation by the five criteria is summarized below. Details are shown in Annex 3, Relevance, Effectiveness, Efficiency, Impact, and Sustainability.

Relevance

The relevance of the Project is very high.

The Project Purpose is consistent with the National Gender Policy of Nigeria which was announced in 2006, in which gender mainstreaming is depicted as a development approach for poverty alleviation in Nigeria. In the Communiqué, adapted in 2006 by National Council of Women Affairs, NCWD was designated as an agency to formulate a guideline for activation of WDCs nation-wide.

The Project is also comforted with Japanese ODA Policy to support poverty alleviation, and women's empowerment is one of the JICA's key issues for assistance in Nigeria.

Kano state was selected as a pilot site because the state is a largest commercial area in the northern region, where there was a will on activation of WDCs and to optimize the effects of other Japanese supports in the northern area. According to 'Kano State Economic Empowerment and Development Strategy' (SEEDS 2005), Kano state aims to integrate women into development and economic structure that will give opportunities to women for sustainable livelihood.

The plan that the extension of assistance would be 6 LGAs was identified by the Preparatory Study Team in 2006 since It is found that the numbers of the pilot WDCs are adequate considering geographical balance.

The entire family members have influences from wives who are attending courses at WDCs. Having skills learned and income generation activities at WDCs, women started to be more self-reliant and assisting some parts of family expenses. Some women also enjoy socialization through WDCs provides a chance of networking of women.

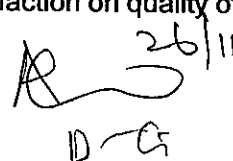
Responding the positive recognition from community and participants' husbands to WDCs, some LGAs started to be more interested in the WDC activities, and there are cases to increase budget for the coming Fiscal Year 2009, and preparing more spaces for WDCs such as additional WDC construction in LGAs.

Based on the above, the Project is thus still consistent with the policy of empowering women in Nigeria.

Effectiveness (Prospect)

Effectiveness of the Project is foreseen as high.

The Evaluation Team observed the Project Purpose is defined clear, and most of Outputs will be able to be achieved by the end of the current Project period by January, 2010, as long as current efforts continue. At present, for example, a level of satisfaction on quality of WDC services,

 26/11
D-C





such as curriculum, provision of equipment and working materials, by the WDC participants has been increasing as almost all respondent of monitoring surveys and an interview survey show satisfaction to the services at WDCs.

As a result of output1, various kinds of good practices have been generated from 6 WDCs. For example, (1) construction of additional WDC in further rural area is planned (Bichi); (2) Although WDC lost the all equipment due to an incident in 2007, LGA provided replacement of necessary equipment (Gwale); (3) LGA supports 2 women from each ward (10 wards in total) to attend the WDC courses with provision of transport fee (Dambatta); (4) rapid increase of participants leads to expansion of WDC (Kumbotso); (5) WDO visits house to house in order to hear request for courses (Gaya); (6) Chicken raising was started to raise income of WDC (Gezawa).

Staff of WDCs and WDOs is also very satisfied with improvement on management of the WDCs brought by the Project implementation, such as better working environment and ways of record keeping after having series of skills-up training. Positive recognition among community, husbands of participants and non-WDC participants to activities of WDCs has been also increasing as community leaders and the participant's husbands now encourage women in the community and their wives to attend the courses at WDCs. With better understanding on importance of the WDCs as a place for leaning and skill development, there are significant increase in participants and applicants are seen in most of the pilot WDCs. Responding this, some LGAs are increasing budget for the WDC activities and plan to add number of the WDCs.

As for formulation of the guideline, the 1st guideline formulation forum was held in October 2008 and it is expected to complete formulation of the guideline by November 2009, according to the present plan. Enhancement of capacity building of the Project team member (officials of NCWD and Kano SMWA) are on the good progress while it is observed that capacity of Project Team members vary from person to person.

Efficiency

Efficiency of the Project is seen as high.

As described in the effectiveness, there have been many good and positive practices which have been produced after only 2 years since the Project started. Inputs of the Project, such as minimum numbers of Japanese expert allocation (one Japanese expert and 7 short-term experts), and numbers of and costs for provision of equipment, are comparatively small albeit the Project is now generating the unexpectedly large effects and influences to not only WDCs but also to community.

The most of Inputs of both the Nigerian and the Japanese sides have been delivered as planned, and have been effectively utilized in order to produce Outputs by efforts of the both sides. This also contributes to community people and WDC participants' husbands recognize the importance of the WDCs.

26/11
DC

Technical transfer by the Japanese long term and short term experts through daily basis discussions and joint work for planning and implementation of the Project are appropriate as the C/Ps increase their confidence through the Project.

On the other hand, it is observed that difficulty to ensure required budget for activities, in special at the national level, remains as a factor, which may inhibit progress of the Project and production of the Outputs. It is suggested that these needs for budget shall be resolved by the Nigerian side as early possible.

Impact (Prospect)

The impact of the Project implementation has been seen very positive so far, there is a high prospect to achieve the Overall Goal, and the Project Purpose in case the present efforts continue as it is scheduled and the external assumptions are met.

Besides such direct impacts through activation of the WDCs, understanding and recognition from LGAs, community and participants' husbands towards the WDCs as a place for leaning and income generation for women. They are now encouraging women to attend the WDCs more than before. For instance, some of these husbands started to support their wives by paying for working materials and transportation, and LGAs official visit more to WDCs in order to supervise the activities or to increase budget to the WDCs. There are some LGAs, which have a plan to increase numbers of WDCs in order to provide more opportunities for rural women and to respond to the needs from increasing applicants to WDCs.

Sustainability (Prospect)

Sustainability of the Project effects is foreseen as secured as long as efforts to sustain the Project effects are continuously carried out. On the other hand, there are needs of arranging necessary budget form the Nigerian side in order to ensure smooth implementation of the Project activities and ownership of the Project.

The Project Team members at NCWD and SMWA, and staff of WDCs have been increasing their skills and knowledge in order to carry out various surveys, monitoring of the Project through daily basis contacts with the long and short term experts as well as participating in various training held in Japan and in Nigeria. On the other hand, there are still needs to strengthen capacity further on planning, management, time management, monitoring/evaluation and writing skills by the end of the Project.

2-3. Conclusion

According to examination of the achievement of the Project by October 2008, and the result of 5 Evaluation Criteria, Activities of the Project have been implemented very satisfactorily, and it is foreseen that the Project Purpose and all Outputs will be achieved within the Project period. This satisfaction of the Project progress is materialized by efforts of both Nigerian Project team and the Japanese experts.

26/11
D-G



3. RECOMMENDATIONS

The Team has made the following recommendations for further improvement of the Project.

(1) Further capacity building of both NCWA and SMWA staffs

Concerning NCWD project members, it is remarkable that their capacity has been increased, especially on research skills. However, considering the future activities for NCWD to disseminate the formulated guideline to other states, planning and management abilities are essential, and in particular, documentation and presentation skills need to be further developed. In addition, skills and knowledge for coordination and advocacy are important. It is recommended that latter half of the project focuses more on strengthening these capacities for future sustainability.

As for SMWA staffs, from the experience of the activities in the pilot site, they seem to have improved not only research skills but also the capacity of guidance and leadership to people in WDC. It is critical to develop these skills to ensure sustainability of WDC activation, and a function of coordination among LGA, WDC and other related institutions supporting women's activities will be required.

(2) Expansion of initiatives of project members' activities

There is no doubt that the efforts of the long-term expert greatly contribute to the successful implementation of the project. On the other hand, a concern on sustainability may be raised both in NCWD and SMWA. Since the project members' research skills have greatly improved and their motivation is adequate, it could be possible to gradually entrust some parts of activities to the members, for instance, a monitoring survey and its analysis.

(3) Importance of further involvement of LGA into project framework

While LGA is not included in the project counterpart, its commitment is one of the keys of further activation of WDC. During this mission, the evaluation team observed LGA's increasing awareness and positive actions to women's activities. Moreover, representatives of 6 LGA and Ministry of Local Government are now a partner of the JCC meeting. Further involvement of LGA is certainly effective to sustain this project.

(4) Allocation of necessary operational cost

Although this agenda is continuously touched in the M/M and the JCC, the situation has not been changed yet. Insufficient payment of travel cost and allowance hampers the smooth implementation of the project and may discourage the project members. Positive and fast actions are required to be taken.

(5) More systematic efforts for capturing needs of women on WDC services

In a view of sustainability, it will be necessary to create a system to capture women's needs of

26/11
D-G

WDC activities based on a medium-long term outlook. In the current sense, 'WDC activation' could be improved if continuous support is provided after the completion of the project and consequently more skilled women will be economically empowered. However, setting up one's own business may not always end up successfully unlike the aim of the current WDC activities, especially when there is higher level of competition among women with similar skills.

In the future, it is foreseen that women's needs are more diverse. To sustain 'activation', it will be necessary to closely collect this information.

4. REVISION OF PROJECT DESIGN MATRIX (PDM)

Based on the results of the Evaluation, the Team suggested some changes in PDM for smoother implementation of the Project and the contents of revision were shared with the project members in the PCM workshop on 25 November 2008. The revised PDM is attached as Annex 2.

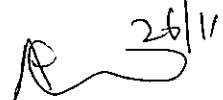
4-1 Definition of 'Guiding Framework'

The Project Purpose of PDM is following;

<An effective guiding framework for activation and management of the WDCs is established by NCWD based on the experience of the project and others>

Since there was a little difficulty in sharing the correct concept of 'guiding framework' among people concerned the project, thereby the definition was clarified in the PCM workshop at NCWD.

In this context of the Project Purpose, the 'guiding framework' is not limited to the guideline as a product delivered from the Project Outputs, but encompasses a state with adequate capacity of personnel and budget of concerned authorities in order to realize activation of WDC in their respective state.


26/11
D G





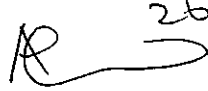
ANNEXES



ANNEX 1. Inputs to the Project

- 1-1. List of Japanese Experts
- 1-2. List of Machinery and Equipment Provided by JICA
- 1-3. List of Participants in Training in Japan, Malaysia and Kenya
- 1-4. List of Nigerian Counterparts
- 1-5. List of Land, Buildings and Facilities
- 1-6. Budget Expenditure
- 1-7. List of Nigerian Counterparts
- 1-8. List of Land, Buildings and Facilities
- 1-9. List of Actual Expenditure

ANNEX 2. Project Design Matrix

ANNEX 3. Evaluation Grid

 26/11
B-G

ANNEX 1

1-1 List of Japanese Expert (as of October 2008)

No.	Name	Title	From	To	Number of Days
1	Ms. Kiyomi KAIDA	Gender and Development	23rd Jan.07	23rd Jan.10	
2	Ms. Tomoko ENOKI	Participatory survey	5th Feb.07	15th Mar.07	39
3	Mr. Atsuyuki KADO	Institutional Development and Organizational Strengthening	12th Feb.07	15th Mar.07	32
4	Mr. Junichi WATANABE	Organizational Management	12th Jul.07	22nd Aug.07	42
5	Ms. Etsuko IKEDA	Organizational Management	28th Jan.08	5th Mar.08	49
6	Ms. Etsuko IKEDA	Social Research (Good practices collection)	14th May.08	4th Jun.08	22
7	Ms.Megumi UEDA	Training planning and management	8th Jul.08	12th Sep.08	65
8	Ms. Chiaki NISHI	Training planning and management	9th Oct 08.	9th Nov. 08	32

A 26/11
D-G

②

1-2 List of Machinery and Equipment Provided by JICA (as of 30 September 2008)

Item	Specification (Model Name/No, Manufacturer)	Quantity	Unit Price (NGN)	Sub Total	Delivery Date	Sight	Condition
Desktop PC	HP 7540	1	135,000	135,000	May. 2007	NCWD Project office	Good
Notebook PC	HP Laptop, 256 MB, DVD/CDRW	2	160,000	320,000	May. 2007	NCWD Project office	Good
Software for PC Operation system	Microsoft Office 2003 professional	2	78,000	156,000	May. 2007	NCWD Project office	Good
Printer	HP Laser Jet PRINTER 1018	1	28,000	28,000	May. 2007	NCWD Project office	Good
Projector	Sony, 200 Max	1	175,000	175,000	May. 2007	NCWD Project office	Good
Photocopier	Sharp Photocopy Machine AL1226	1	132,000	132,000	May. 2007	NCWD Project office	Good
Digital camera	Sony, 7.2 PIXEL	1	78,000	78,000	May. 2007	NCWD Project office	Good
Stabilizer	Century 1000 KVA	2	4,500	9,000	May. 2007	NCWD Project office	Good
Vehicle	TOYOTA High Ace 15seater, AC	1	4,222,351	4,222,351	May. 2007	NCWD	Good
Printer	HP Colour printer	1	25,000	25,000	Jun. 2007	NCWD Project office	Good
Notebook PC	HP Laptop, 256 MB, DVD/CDRW	2	120,000	240,000	Jul.2007	NCWD Project office	Good
Software for PC Operation system	Microsoft Office 2007 professional	2	65,000	130,000	Jul.2007	NCWD Project office	Good
Generator		1	18,000	18,000	Aug.2007	Kano SMWA	Good
Stabilizer	2000VA	1	6,000	6,000	Aug.2007	NCWD Project office	Good
Internet modem	Starcomms mobile internet modem	2	47,850	95,700	Nov.2007	NCWD Project office	Good
Notebook PC	HP Laptop, 256 MB, DVD/CDRW	2	122,000	244,000	Nov.2007	NCWD Project office Kano SMWA	Good
Software for PC Operation system	Microsoft Office 2007 professional	2	65,000	130,000	Nov.2007	NCWD Project office Kano SMWA	Good
UPS	CRISTA 1500	2	30,000	60,000	Nov.2007	NCWD Project office	Good
Printer	HP Laser Jet PRINTER 1018	1	18,000	18,000	Dec.2007	Kano SMWA	Good
Printer	HP Colour printer Deskjet D4163	1	13,000	13,000	Mar-08	NCWD Project office	Good
Stabilizer	2000VA	1	6,000	6,000	Jul.2007	NCWD Project office	Good
Projector screen	70inch x 70inch stand	1	30,000	30,000	Sep-08	NCWD Project office	Good
Total				6,271,051	Naira		

AR 26/11
D-G

1-3 List of WDC Equipment Provided by JICA (as of 30 September 2008)

Item	Specification (Model Name/No, Manufacturer)	Quantity	Unit Price (NGN)	Sub Total	Delivery Date	Sight	Condition
Sewing machine	Butterfly	54	13,000	702,000	May. 2007	9 at each WDC (Bichi, Dambatta, Kumbotso, Gaya, Gezawa, Gwale)	Good
Knitting machine	brother	12	28,000	336,000	May. 2007	2 at each WDC (Bichi, Dambatta, Kumbotso, Gaya, Gezawa, Gwale)	Good
Grinding machine		6	40,000	240,000	May. 2007	1 at each WDC (Bichi, Dambatta, Kumbotso, Gaya, Gezawa, Gwale)	Good
Generator	2.2KVA YAMAHA	6	47,000	282,000	May. 2007	1 at each WDC (Bichi, Dambatta, Kumbotso, Gaya, Gezawa, Gwale)	Good
Embroidery machine	Singer/Ambro Brothers	8	110,000	880,000	May. 2007	1 at each WDC (Dambatta, Gaya, Gezawa, Gwale), 2 at Bichi and Kumbotso WDC	Good
Kerosen stove	Medium, Butterfly	12	5,000	60,000	May. 2007	2 at each WDC (Bichi, Dambatta, Kumbotso, Gaya, Gezawa, Gwale)	Good
Desk	Executive desk	12	20,000	240,000	Feb-08	2 at each WDC (Bichi, Dambatta, Kumbotso, Gaya, Gezawa, Gwale)	Good
Chair	Semi Executive chair	12	7,000	84,000	Feb-08	2 at each WDC (Bichi, Dambatta, Kumbotso, Gaya, Gezawa, Gwale)	Good
Cabinet	4 drawers cabinet	12	15,500	186,000	Feb-08	2 at each WDC (Bichi, Dambatta, Kumbotso, Gaya, Gezawa, Gwale)	Good
Table	Classroom table	24	5,000	120,000	Feb-08	2 at each WDC (Bichi, Dambatta, Kumbotso, Gaya, Gezawa, Gwale)	Good
Chair	Classroom chair	30	3,000	90,000	Feb-08	2 at each WDC (Bichi, Dambatta, Kumbotso, Gaya, Gezawa, Gwale)	Good
Sewing machine	Butterfly	30	13,800	414,000	Dec.2006	5 at each WDC (Dambatta, Gaya, Gezawa), 15 at Gwale	Some parts are missing. Cannot assembled
Knitting machine	brother	30	28,000	840,000	Dec.2006	5 at each WDC (Dambatta, Gaya, Gezawa), 15 at Gwale	Many parts are missing. main body is too old and not functioning at all
Grinding machine		12	40,000	480,000	Dec.2006	2 at each WDC (Bichi, Dambatta, Kumbotso, Gaya, Gezawa, Gwale)	some parts are missing and cannot assembled.
Sewing machine	Butterfly	10	14,000	140,000	Aug. 2008	5 at Bichi and Kumbotso WDC for graduates support	Good
Knitting machine	brother	10	9,000	90,000	Aug. 2008	5 at Bichi and Kumbotso WDC for graduates support	Good
Total				5,184,000	Naira		

Handwritten signature
26/11
D-G

Handwritten mark

Handwritten signature

1-4 Counterpart Training in Japan

Specific training for the Project

No.	Name	Position or Profession	Organization	Role in Project	Course Title	Venue	From	To	Duration
1	Mr. Umar Idris MOH'D	Senior Research Officer	Planning, Research and Statistics Department ,NCWD	Project coordinator (From Jan.2007-Feb.2008)	Training on Gender sensitive and responsive community development planning	JICA TOKYO NWEC (National Women Education Centre)	11 Sep 2007	4th Oct 2007	4 weeks
2	Mr. Woyengiloro Turner George	Senior Research Officer	Planning, Research and Statistics Department ,NCWD	Project deputy coordinator (From Jan.2007-Feb.2008) Project coordinator (From Feb.2008-present)					
3	Mr. Azubike Ogu	Research Officer	Planning, Research and Statistics Department ,NCWD	Secretary (From Jan.2007-present)					
4	Ms. Jummai Modu	Research Officer	Planning, Research and Statistics Department ,NCWD	Well-fare officer (From Jan 2007-present)					
5	Mr. Orilearo Emmanuel OLAYINKA	Principal data entry officer	Planning, Research and Statistics Department ,NCWD	Data entry officer	Training on Gender sensitive and responsive community development planning	JICA TOKYO NWEC (National Women Education Centre)	30 Jun 2008	1st Aug 2008	5 weeks
6	Ms. Aisha Asabe Mohammed	Principal planning officer	Planning, Research and Statistics Department ,NCWD	Project member (From Jan.2007-present) Project deputy coordinator (From Feb.2008-present)					
7	Ms. Aishatu ATIKU	Director of Women Affairs department	Department of Women Affairs, Ministry of Women Affairs and Social Development Kano State	Kano SMWA CP From Jan.2007-present					
8	Mr. Aminu SA'AD Kurawa	Deputy Director of Women Affairs department	Department of Women Affairs, Ministry of Women Affairs and Social Development Kano State	KANO SMWA CP From Mar. 2008-present					

Issues specific Training

9	Ms. Memuna Sani	Head of Women In Development Unit	Department of Women Affairs, Ministry of Women Affairs and Social Development Kano State	Desk officer at KANO (From Jan.2007-present)	Group Training Empowerment of Rural Women	JICA TSUKUBA	25th May 2008	8th Aug.2008	10 weeks
10	Ms. Fatima Adamu	Director	Planning, Research and Statistics Department ,NCWD	Project Manager (From Dec.2007-present)	Seminar on Gender mainstreaming policies for government officers	JICA KYUSYU	16 Jun 2008	19 Jul 2008	4 weeks

A 26/11
D-G

1-5 In Country Training

No.	Course Title	Participants' Position	Number of participants	Programme	Venue	From	To	Duration	Cost
1	Skill up training for WDC Instructors #1	WDC Instructors	30	Sewing (Adult ladies dress, bag with knitting) Embroidery with machine, Knitting (baby's set), food processing with grinding machine	NCWD, Abuja	31st July 07	14th Aug. 07	2weeks	2,794,110
2	Skill up training for WDC Instructors #2	WDC Instructors	35	Rice threshing, food processing (spices, vegetable puree), Food preservation and juice making	SMWA, Kano	6th Feb. 08	15th Feb. 08	8days	1,755,575
3	Skill up training for WDC Instructors #3	WDC Instructors and participants	213	Maintenance and daily care of sewing and knitting machine	WDC, Kano	28th July. 08	30th July 08	3days	469,120
4	Study tour for WDC Instructors and related officers	WDC Instructors, WDO, HOD, SMWA, NCWD	53	Visit an advanced WDC in Zamfara state. various training possibilities at WDC were understood and views were exchanged.	Zamfara state	26th Feb 08	28th Feb 08	3days	936,000
5	Study tour for WDC participants	WDC participants, Instructors	120	Visit the advanced women's cooperative and private vocational school in Kano city to broaden the ideas of business after graduation for WDC participants and establish network between WDC and community.	Cooperatives, NGOs, Kano	13th Aug.08	22nd Aug. 08	6days	325,360
6	Resarch Training	NCWD Project members, SMWA members	14	Basic research skills (quantitative and qualitative) and some tools of participatory survey were taught.	NCWD, Abuja	14th Jan.08	18th Jan. 08	5days	518,450
7	PC Training #1	NCWD Project members	8	Basic of the Microsoft Word and Excel were taught. Five of eight participants passed the Word and Excel exam which was provided by the IT centre of NCWD.	NCWD, Abuja	28th Nov.07	4th Dec. 07	5days	280,000
8	PC Training #2	NCWD Project members	5	Basic of the Microsoft Word and Excel were taught.	NCWD, Abuja	8th Sep 08	12th Sep 08	5days	175,000
9	Business Training (Graduates' support WS)	WDC Instructors, WDO, HOD, SMWA	40	lecture on micro finance and small scale entrepreneurship were made. Training on accounting, business planning, marketing were done through group work. Lesson plan on business education for WDC participants was developed.	SMWA, Kano	5th Aug 08	7th Aug 08	3 days	464,300
10	Management training #1 (English)	WDC Instructors, WDO, HOD, SMWA	18	Training on organizaional management, filing and keeping record, accounting, reporting	SMWA, Kano	23rd July 07	3rd Aug 07	2weeks	1,346,500
11	Management training #2 (Hausa)	WDC Instructors, WDO	18	Training on organizational management, filing and keeping record, accounting, reporting	SMWA, Kano	6th Aug.07	17th Aug. 07	2weeks	
12	Management training #3 (On the Job Training)	Head of WDC,WDC Instructors, WDO, HOD	30	On the job training on better working environment, filing and keeping record, reporting, staffing and leadership, budget and decision making.	WDCs/ LGAs in Kano	4th Feb 08	4th March 08	14 days	626,569
13	Management training #4 (On the Job Training)	Head of WDC,WDC Instructors, WDO, HOD	30	On the job training on better working environment, filing and keeping record, reporting, staffing and leadership, budget and decision making.	WDCs/ LGAs in Kano	13th Oct 08	5th Nov 08	14 days	646,720

Handwritten signature and date: 26/11
D-G

Handwritten mark: E

Handwritten signature

1-6 List of Nigerian Counterparts

NCWD Project team members

No.	Name	Role in Project	Position	From	To
1	Dr. Aisha U.Mahmood	Project Director	Director-Generat of NCWD	Jan 2007	present
2	Mr. Mallam Sadeeq Omar	Project Manager	Act. Director of Planning, Research and Statistics Department, NCWD	Jan 2008	Dec.2007
3	Dr. Fatima Adamu	Project Manager	Director of Planning, Research and Statistics Department, NCWD	Dec.2007	present
4	Mr. Umar Idris MOH'D	Project Coordinator	Senior research officer of Planning, Research and Statistics Department, NCWD	Jan 2007	Feb 2008
5	Mr.Woyengkuro Turner George	Project deputy coordinator Project coordinator	Senior research officer of Planning, Research and Statistics Department, NCWD	Jan 2007	present
6	Mr. Onilearo Emmanuel OLAYINKA	Data entry officer	Senior research officer of Planning, Research and Statistics Department, NCWD	Jan 2007	present
7	Ms. Aisha Asabe Mohammed	member Project deputy coordinator	Senior research officer of Planning, Research and Statistics Department, NCWD	Jan 2007	present
8	Mr.AzubikeOgu	Secretary	Research officer of Planning, Research and Statistics Department, NCWD	Jan 2007	present
9	Ms.Jummai Modu	well fare officer	Research officer of Planning, Research and Statistics Department, NCWD	Jan 2007	present
10	Mr. Salisu Wakili Umar	Member	Senior officer of Training Department, NCWD	Jan 2007	Feb 2008
11	Mr. Ibrahim Nasir	Project Public Relations Officer	Officer of Training Department, NCWD	Jan 2007	Feb 2008
12	Ms. Nneka Elonu	Member	Officer of Plannin, Research and Statistics Department, NCWD	Jan 2007	Feb 2008
13	Ms. Omoruyi Bukora	Member	Officer of Plannin, Research and Statistics Department, NCWD	Jan 2007	May 2007
14	Mr. L.S.Gumel	Member	Senior officer of Training Department, NCWD	Feb 2008	present
15	Mr. Mukutar Usman	Member	Officer of Plannin, Research and Statistics Department, NCWD	Feb 2008	present

Kano Ministry of Women Affairs and Social Development

* Counterparts are highlighted. Others are officers from the Ministry who often participates in activities.

	Name	Position	Organization	From	To
1	Alhaji. Nasidi Abdullehi	Permanent Secretary	Ministry of Women Affairs and Social Development, Kano State	Jan 2007	
2	Arc. Aminu Sani	Permanent Secretary	Ministry of Women Affairs and Social Development, Kano State		present
3	Ms. Aishatu ATIKU	Director of Women Affairs Department	Department of Women Affairs, Ministry of Women Affairs and Social Development, Kano State	Jan 2007	present
4	Mr. Aminu SA'AD Kurawa	Deputy Director of Women Affairs Department	Department of Women Affairs, Ministry of Women Affairs and Social Development, Kano State	Mar 2008	present
5	Ms. Memuna Sani	Project Desk officer (Head of Women in Development Unit)	Department of Women Affairs, Ministry of Women Affairs and Social Development, Kano State	Jan 2007	present
6	Ms. Umma Muhammad	Project Assistant Desk Officer	Department of Women Affairs, Ministry of Women Affairs and Social Development, Kano State	Jan 2008	present
7	Ms. Aisha Abdulfahi	Assistant Director training	Department of Women Affairs, Ministry of Women Affairs and Social Development, Kano State	Jan 2007	present
8	Ms. Bintu Shefu	Officer in Training unit	Department of Women Affairs, Ministry of Women Affairs and Social Development, Kano State	Jan 2007	present
9	Ms Bintu Musa Yola	Officer in Training unit	Department of Women Affairs, Ministry of Women Affairs and Social Development, Kano State	Jan 2007	present
10	Mr. Sani Abubakar	Chief social welfare officer	Department of Women Affairs, Ministry of Women Affairs and Social Development, Kano State	Jan 2007	Apr 2007
11	Ms. Mariya Ado	Legal Officer	Department of Women Affairs, Ministry of Women Affairs and Social Development, Kano State	Jan 2007	Oct 2007
12	Mr. Ado Rimi	Officer in Training unit	Department of Women Affairs, Ministry of Women Affairs and Social Development, Kano State	Jan 2007	present
13	Mr. Ado Namadi	Officer in WID Unit	Department of Women Affairs, Ministry of Women Affairs and Social Development, Kano State	Jan 2007	present
14	Mr. Yakubu Mohd	Research officer	Department of plannin, research and statistics, Ministry of Women Affairs and Social Development, Kano State	Jan 2008	present
15	Mr. Kabiru Zalba	Research officer	Department of plannin, research and statistics, Ministry of Women Affairs and Social Development, Kano State	Jan 2008	present

*Handwritten signature and date: R 26/11
D-G*

Handwritten mark

Handwritten signature

1-7 List of Nigerian Counterparts (Participants)

LGA level (including WDC)

LGA Department of Community Development

No.	Name	Position	Organization	From	To
1	Alhaji Nura Sunusi	Head of Community Development	Bichi Local Government	Jan.2007	Present
2	Mr. Ibrahim Moh'd	Head of Community Development	Dambatta Local Government	Jan.2007	Present
3	Mr. Shehu Ibrahim	Head of Community Development	Gaya Local Government	Jan.2007	Present
4	Mr. Musa Usman Hariban	Deputy Head of Community Development	Gezawa Local Government	Jan.2007	Present
5	Mr. Suleiman Mani Dangara	Head of Community Development	Gwale Local Government	Jan.2007	Sep.2008
6	Mr. Ubale Jau Dunduri	Head of Community Development	Kumbotso Local Government	N.A	N.A

LGA Women Development Officer

1	Ms. Zainab Ahmad	Women Development Officer	Bichi Local Government	Jan.2007	Present
2	Ms. Fatima Lismari	Women Development Officer	Dambatta Local Government	Jan.2007	Present
3	Ms.Hafsa Abdullshi Suleinau	Women Development Officer	Gaya Local Government	Jan.2007	Present
4	Ms.Majjiddha Magaji	Women Development Officer	Gezawa Local Government	Jan.2007	Present
5	Ms. Khadija Iman Abdullabu	Women Development Officer	Gwale Local Government	Jan.2007	Present
6	Ms Majjiddha Mah'd	Women Development Officer	Kumbotso Local Government	Jan.2007	Present

Head of WDC

1	Ms. Aisha Abubakar	Head of WDC	Bichi WDC	Jan.2007	Present
2	Ms. Sabo Idris	Deputy Head of WDC	Dambatta WDC	Jan.2007	Present
3	Ms. Sabuwa Baffa	Head of WDC	Gaya WDC	Jan.2007	Present
4	Ms. Alhakatu Musa Lisman	Head of WDC	Gezawa WDC	Jan.2007	Present
5	Ms. Asmau Mohamad	Head of WDC	Gwale WDC	Jan.2007	Apr.2008
6	Ms Hadiza Jafer	Head of WDC	Kumbotso WDC	Jan.2007	Present

AP 26/11

D-G

AP

1-8 Land, Buildings and Facilities

1. National Centre for Women Development (NCWD)

No.	Venue at NCWD	Venue
1	Project Office	National Centre for Women Development 2nd Floor

2. Ministry of Women Affairs and Social Development , Kano State

No.	Venue at NCWD	Venue
1	Project Office	Ministry of Women Affairs and Social Development, Kano State

AR 26/11
D-G

AE
AE

1-9 Actual Expenditure (as of 31st October)

JICA

	2007	2008	Total
Operation cost	2,328,993	6,341,316	8,670,309
Equipment	8,061,779	2,455,000	10,516,779
Training			
Japan training (YEN)	9,472,000	9,995,000	19,467,000
In-country training	4,420,610	6,018,094	10,438,704
Total	24,283,382	24,809,410	49,092,792

(Unit Nira)

* Nigerian Fiscal year is applied. NOT Japanese Fiscal year.

Year 2007 means from January 2007 to December 2007

* The cost of Japan training is shown in Japanese YEN.

NCWD

	2007	2008	Total
Operational cost	1,202,847	1,809,962	3,012,809
Training	672,000	179,750	851,750
Total	1,874,847	1,989,712	

A 26/11
D-G

E

ANNEX 2

REVISED PROJECT DESIGN MATRIX (PDM)

Project Title: Project on Activation of the Women Development Centres (WDCs) to Improve Women's Livelihood

Duration: 3 years (2007.1 – 2010.1)

Project Area: Abuja, Kano


Target Group: WDC Participants in 6 LGAs in the Kano State (6,000 persons), staff of concerned organizations (NCWD, SMWA, LGAs, and WDCs) (100 persons)


Version: November 26, 2008

Narrative Summary	Objective verifiable Indicators	Means of verification	Important Assumptions
<p>[Overall Goal] Women's empowerment is enhanced at the community and household level in Nigeria through making WDCs function better.</p>	<ol style="list-style-type: none"> Continued increase of well-performing WDCs in accordance with the guideline to be revised. [This may be modified, depending on the revised guideline.] Enhanced women's empowerment from the following viewpoints: <ol style="list-style-type: none"> Continued improvement of women's contribution to household income Continued improvement of women's participation in decision-making within household 	<ol style="list-style-type: none"> Monitoring reports/papers to be produced by NCWD (tentative) Nigeria Core Welfare Indicators (published annually) and/or Demographic survey (conducted on an irregular basis) 	<ol style="list-style-type: none"> Continued supports to gender equality and women empowerment in NEEDS2 and 7 Point Agenda Same with No. 1 and 2 of the important assumption of "Activity".
<p>[Project Purpose] An effective guiding framework for activation and management of the WDCs is established by NCWD based on the experience of the project and others</p>	<p>An operational guideline on activation and management of WDC is finalized.</p> <p>(NOTE) The degree of "operational" will be assessed qualitatively from the following viewpoints:</p> <ol style="list-style-type: none"> Coverage of the issues to be included in the draft guideline Assessment of practicality and applicability 	<ol style="list-style-type: none"> Desk study on quality of the guideline to be conducted by the project Questionnaire survey with concerned organizations on the guideline to be conducted by the project 	<ol style="list-style-type: none"> Same with No. 1 and 2 of the important assumption of "Activity" Dissemination efforts of the revised guideline will be made by NCWD, etc through appropriate budgeting, staffing, networking (between NCWD and the relevant agencies including the state ministries concerned and WDCs).

26/11
1
D-G

<p>[Outputs]</p> <p>1. WDCs in the project sites are activated, which are defined by</p> <ul style="list-style-type: none"> (i) improved service quality of the target WDCs, (ii) increased positive recognition to the target WDCs, (iii) improved WDC management. <p>2. Draft guideline is developed based on the compiled good practices.</p> <p>3. Capacity of the project team, which consists of NCWD and the Kano SMWA officials engaging in project implementation, is enhanced.</p>	<p>1-1. <u>Improved quality of services provided by WDCs</u></p> <p>1-1-1. Improved level of satisfaction of quality of WDC services by WDC participants from the following viewpoints [Continued improvement will be monitored with rating system regularly.]</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) WDC curriculum (2) WDC lecture and instructor (3) Support to participants/graduates (4) Equipment (5) Working materials <p>1-1-2. Improved quality of the framework of each WDC for capturing needs of women on WDC services [Continued improvement will be monitored with traffic light assessment regularly.]</p> <p>1-2. <u>Increased positive recognition on WDCs as a place of women's empowerment</u></p> <p>1-2-1. Improved level of positive recognition of the community people and non-WDC participants on WDCs. [Continued improvement will be monitored with traffic light assessment regularly.]</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) Husband views (2) Community stakeholder views (3) Non-WDC participant views <p>1-2-2. Improved quality of the framework of each WDC for capturing needs of the community on WDC services [Continued improvement will be monitored with traffic light assessment regularly.]</p> <p>1-2-3. Continued improvement of empowerment of WDC participants</p>	<p>1. Periodical monitoring reports/papers to be produced by the project</p> <p>2. Desk study to be conducted by the project</p> <p>3. Internal evaluation reports/papers on capacity of the project team, to be produced by the project</p>	<p>Same with No. 1 and 2 of the important assumption of "Activity"</p> <p>Continued NCWD's work for refining a guideline, which is not covered by the Project, e.g. collecting good practices of well-performing WDCs in other states in Nigeria in line with its work plan</p>
---	---	--	---



2

 D-G



	<p>1-3. <u>Improved WDC management</u></p> <p>1-3-1. <u>Improved level of quality of WDC management</u> [Continued improvement will be monitored with traffic light assessment regularly.]</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) Working environment (2) Filing and Keeping records (3) Reporting and feedback <p>1-3-2. <u>Improved level of quality of key elements for better WDC management</u> [Continued improvement will be monitored with traffic light assessment regularly.]</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) Leadership (2) Staffing (3) Budget (4) Decision making <p>2. <u>A guideline is revised /refined as scheduled in accordance with the Plan of Operation.</u></p> <p>3. <u>Enhanced capacity of the project team from the following viewpoints.</u> [Continued enhancement will be monitored with traffic light assessment regularly.]</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) Planning (2) Implementation of the project (including the field survey) (3) Management (process, time and output) (4) Report writing and presentation 		
--	--	--	--

3

 26/11
 D-25

<p>[Activities]</p> <p>1.1.1 Select the target LGAs in Kano State</p> <p>1.1.2 Conduct the baseline survey to collect the following information in the selected LGAs.</p> <p>(1) Current condition of WDCs</p> <p>(2) Services for women provided by government agencies apart from WDCs or NGOs</p> <p>(3) Women's activities in a local market</p> <p>1.1.3 Develop the action plan to run WDCs based on the result of baseline survey 1-2, 2-1 and 3-1 and the previous year's results.</p> <p>1.1.4 Conduct the skill improvement training for WDC instructors</p> <p>1.1.5 Provide the necessary equipment for WDC activities.</p> <p>1.1.6 Organize and conduct the study tour to the advanced WDCs outside of the project sites for WDOs and WDC staff.</p> <p>1.1.7 Establish the support service for WDC graduates.</p> <p>1.1.8 Design and conduct the monitoring survey to assess the condition of WDCs in the project site in every six months.</p> <p>1.2.1 Design and conduct baseline survey to collect the following information in the selected LGAs.</p> <p>(1) Living condition of WDC</p>	<p>[Inputs] Nigeria side</p> <p>1. Personnel</p> <p>(1) Project Director (DG of NCWD)</p> <p>(2) Project Manager (Director of PRS, NCWD, Project Coordinator (staff of PRS, NCWD)</p> <p>(3) Deputy Project Coordinator (staff of PRS, NCWD)</p> <p>(4) Other NCWD CP x 8 persons (PRS x 6, TR x 2)</p> <p>(5) SMWA CP x 6 officials</p> <p>2. Facilities</p> <p>(1) Office for a long-term Japanese Expert and the project office at NCWD</p> <p>(2) Office for short term Japanese Experts at SMWA in Kano</p> <p>3. Local costs</p> <p>Budget allocation (e.g. transport and travel allowances for civil servants involved in the project, running cost, and operation cost)</p>	<p>[Inputs] Japan side</p> <p>1. Personnel</p> <p>(1) Japanese long-term expert: 1 person (Gender and Development)</p> <p>(2) Japanese short-term experts (Participatory survey) (Training planning) (Institutional Development and Organizational Strengthening): 2 to 3 persons per year as they are needed.</p> <p>2. Training in Japan</p> <p>4 persons per year (for one month)</p> <p>3. Training in the third country as it is needed.</p> <p>4. In-country Training</p> <p>Twice per year for 50 persons (for one month)</p> <p>5. Equipment</p> <p>(1) To NCWD</p> <p>*Vehicle for research and site visits</p> <p>*Office equipment for research</p> <p>*Audio-visual equipment for advocacy campaign</p> <p>*Training equipment for WDC instructor's</p>	<p>1. Continued supports (including budget allocation and disbursement) to women empowerment and WDCs by the Federal Ministry of Women Affairs, NCWD, SMWA, and the other organization concerned (including the local government)</p> <p>2. Sustained institutional framework relating to gender equality and women empowerment (i.e. division of labors among FMWA, NCWD, Kano SMWA, and other organization concerned (including the local government)</p>
--	---	---	---

4
26/11
D-G

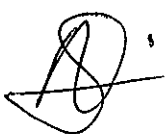
<p>participants, non-participant women, and their husbands.</p> <p>(2) Perception on WDC for participants, non-participant, and husbands</p> <p><i>1-2-2 Conduct the advocacy to policy makers in the pilot sites to raise awareness on WDC activation</i></p> <p><i>1-2-3 Sensitize people in the pilot sites to raise awareness on gender issues and WDC activation</i></p> <p>1.2.4 Organize and conduct study tour to cooperatives in the project sites for WDC participants</p> <p>1.2.5 Design and conduct the monitoring survey to assess the recognition of WDCs and women's empowerment in the selected LGAs in every six months</p> <p><i>1-2-6 Conduct a qualitative survey about the impacts on women's empowerment by WDCs activities</i></p> <p>1.3.1 Conduct the baseline survey to collect the following information in the selected LGAs.</p> <p>--Current condition of the management of WDCs</p> <p>1.3.2 Design and conduct the management training on WDC.</p> <p>1.3.3 Establish the network to enhance WDC activities with all stakeholders.</p> <p>1.3.4 Design and conduct the monitoring survey to assess the</p>		<p>training (for Department of Training)</p> <p>(2) To SMWA</p> <p>*Training equipment for WDC instructors' training (for the State owned WDC)</p> <p>(3) To WDCs in project sites (To LGA)</p> <p>*Equipment for WDCs</p> <p>*Equipment for WDCs graduates (rotating)</p> <p>6. Local cost</p> <p>(1) Operation cost for the project</p> <p>(2) Renovation of facilities of WDCs in project sites</p>	<p>Pre conditions</p> <p>1. Continued WDC's role in women's empowerment</p> <p>2. Continued NCWD's role in drafting a guideline for activation and management of the WDC in accordance with the communiqué adopted by the National Council for Women Affairs held in November 2006</p>
---	--	--	---

26/v
5
D-G

<p>condition of WDC management in the selected LGAs in every six months</p> <p>2.1 Compile the practices of WDC activation in the selected LGAs.</p> <p>2.2 Refine the practical guideline on the activation of WDC based on the practices compiled.</p> <p>2-3 <i>Conduct the advocacy to other states to raise their awareness on WDC activation and to involve them into the WDC guideline forum.</i></p> <p>2.4 Organize the forum on the WDC guideline with the concerned agencies</p> <p>2.5 <i>Collect good practices from other states and reflect them into the draft guideline.</i></p> <p>2-6 <i>Revise the WDC guideline based on the result of 2-3 and 2-4.</i></p> <p>3.1. Long-term expert to provide day-to-day advice to the project team</p> <p>3.2. Hold training courses & workshops for the project team</p>			
---	--	--	--

FMWA: Federal Ministry of Women Affairs
LGA: Local Government Area
NCWD: National Centre for Women Development
SMWA: State Ministry of Women Affairs
WDC: Women Development Centre

26/11
D-G




Evaluation Grid (draft) Mid-term Evaluation of Project on Activation of the Women Development Centre (WDCs) to Improve Women's Livelihood
As of Nov. 25, 2008

Evaluation Criteria	Evaluation Questions		Information/data required	Achievement as of October 2008		
	Main Questions	Sub Questions				
Examination of Achievement	Progress of Inputs	<p>Are Inputs carried out as planned from the Nigerian side? (Comparison with PDM and PO) C/P Deployment</p> <p>Activity cost and equipment</p> <p>Project implementation, management and support structure</p> <p>Are Inputs carried out as planned from the Japanese side? (Comparison with PDM and PO)</p> <p>Expert dispatch</p> <p>C/P training in Japan and in Nigeria</p> <p>Equipment</p> <p>Activity cost</p>	<p>Experts (Expertise), C/P deployment, Budget, Equipment and Facilities, Timing of Inputs</p> <p>Numbers, Position, Expertise</p> <p>Cost of activity cost & equipment, contents and timing</p> <p>Project implementation, management and support structure</p> <p>Numbers, expertise, timing</p> <p>Numbers, expertise, timing</p> <p>Types, numbers, purpose of inputs</p> <p>Budget and expense</p>	<p><Nigerian Side ></p> <p>1. C/P allocation as the Project Team:</p> <p>1) NCWD: 15 persons (as of October 2008, 6 persons are Project team members)</p> <p>2) SMWA (Kano) : 4 persons</p> <p>2. Activity Cost and Equipment:</p> <p>1) NCWD: C/P fund in FY2008 has not been approved yet.</p> <p>2) Kano State MWA: FY 2008 about 3.4 million Nigerian Naira</p> <p>3. Project Implementation/Management and Support Structure:</p> <p>1) NCWD: implementing agency</p> <p>2) SMWA: implementation/supervision/monitoring of the pilot 6 WDCs</p> <p>4. Facilities: Project Office at NCWD, Project space at Kano SMWA prepared respectively</p>		
			Progress of Achievement of Outputs	<p>Are Output 1 produced as Planned? (Comparison with PDM, PO and Indicators)</p>	<p>I-1 Achievement for improved service quality for WDCs</p> <p>I-2 Achievement for increased positive recognition to the target WDCs from</p>	<p><Japanese side ></p> <p>1. Long term experts: 1 person (Gender and Development)</p> <p>2. Short-term experts 7 persons (Participatory Survey, Institutional Development and Organizational Strengthening, Organizational Management : 2 persons, Social Research (good practice collection), Training Planning : 2 persons</p> <p>3. Training in Japan: 10 persons (2: group training course, 8: country focused training course)</p> <p>4. Training in Nigeria: 614 persons (13 times)</p> <p>5. Equipment: in total 11,455,051 Nigerian Naira (6,271,051 Nigerian Naira + 5,184,000 Nigerian Naira) = Japanese Yen 10,591,051</p> <p>6. Local costs: in total 43,643,184 Naira = Japanese Yen about 37,370,000 (FY 2007: 2,182,0078 Nigerian Naira + FY 2008: 2,182,3106 Nigerian Naira)</p> <p>(Exchange rate: USD=119.25 Nigerian Naira, JY=1.20 Nigerian Naira November, 2008)</p>
						<p>Prospect of achieving all Outputs are high in general. The following analysis is basically made based on the interview survey during the mid-term Evaluation, the 3 times of the monitoring surveys implemented by the Project and project progress report made by the Japanese experts.</p>

10-26/11
D-6

			<p>community</p> <p>1-3 Achievement for improved WDC management</p> <p>Progress of draft guideline formulation</p> <p>Capacity development of the Project Team members (NCWD and Kano SMWA) on planning, project implementation, management, report writing and presentation</p>	<p><Output 1 ></p> <p>1-1 Improved quality of services provided by WDCs</p> <p>1-1-1 Improved level of satisfaction of quality of WDC services by WDC participants from the following viewpoints</p> <p>The 3rd monitoring survey and interview show increase of satisfaction to the WDC services.</p> <p>(1) WDC Curriculum: At present, each WDC uses its own lesson plans and syllabus. Respondents among WDC Participants are satisfied with curriculum. Development of standardized curriculum to be used throughout the WDCs is requested from WDCs.</p> <p>(2) WDC lecture and instructor: In general, capacity of instructors is increasing through series of skill-up training by the Project. There are different views between monitoring survey and interview. The level of the satisfaction of the instructors is rated from 68-84% (The 3rd monitoring report) (100% as a fully satisfactory level). Some participants see quality of instructors is not good enough, and numbers of the instructors are also in short compared with increase in numbers of participants. (Interview)</p> <p>(3) Facilities: The level of the satisfaction of the instructor is 25-57%.</p> <p>(4) Support to graduate: Serious of business training is conducted in August 2008, and provision of equipment using a revolving fund was considered in the Project. The level of satisfaction on graduate support was answered 26-49%.</p> <p>(5) Equipment: The level of satisfaction on equipment was as high as 70-83%. Respondents are very satisfied with equipment, but many respondents also mention numbers of equipment is not enough. This is due to rapid increase of participants after the Project started.</p> <p>(6) Working materials: Because of support from LGAs, the level of satisfaction is increasing from 3-30% to 55-72%. LGA's response to WDC's request is becoming quicker than before.</p> <p>1-1-2. Improved quality of the framework of each WDC for capturing needs of women on WDC services</p>
<p>Are Output 2 produced as Planned? (Comparison with PDM, PO and Indicators)</p>				
<p>Are Output 3 produced as Planned? (Comparison with PDM, PO and Indicators)</p>				

26/11
D-5

<p>There are efforts at ad hoc base, but it is still necessary to make more efforts for systematic improvement.</p>	<p>1-2: Increased positive recognition on WDCs as a place of women's empowerment Recognition among community, husbands of participants and non-WDC participants to activities of WDCs have been increasing: ### 1-2-1: Improved level of positive recognition of the community people and non-WDC participants on WDCs Through the monitoring survey; (1) Husbands views: 90-98% (as a level of satisfaction) (2) Community stakeholder views: 91-97% (3) Non-WDC participant views: 81-93% Through the interview, 60% of respondents replied recognition of husband increased, and 80% of respondents replied recognition from community increased.</p> <p>1-2-2: Improved quality of the framework of each WDC for capturing needs of the community on WDC services Most of the pilot WDCs is successfully receiving better recognition from community than before except for Gezawa WDC.</p> <p>1-2-3: Continued improvement of empowerment of WDC participants ### 1-3: Improved WDC management 1-3-1: Improved level of quality of WDC management Importance of the WDC management is aware. Respondents see the following improvements: (1) Working environment: 63-100% (2) Filing and keeping record: 27-93% (3) Reporting and feedback: 0-71% 1-3-2: Improved level of quality of key elements for better WDC management Respondents see the following improvements: (1) Staffing: 54-85% (2) Budget: 14-71% (3) Leadership: 83-100%</p>
---	--

26/11
D-E-


[Handwritten signature]

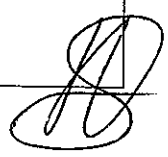
			<p>(4) Decision making : 45-82% All the WDC heads and WDOs stated levels of management; in particular record keeping, was improved very much, and contributed to operate the WDCs better than before.</p> <p>### <Output 2 > 2. A guideline is revised /refined as scheduled in accordance with the Plan of Operation (1) Formulation of the draft guideline in September 2008 (2) The 1st guideline forum in October 2008</p> <p>### <Output 3 > 3. Enhanced capacity of the project team Self-assessment of the Project team members (shown in %) and Japanese experts (the latter %) are as follows. There are differences between them. (1) Planning : 77%, below 60% to 85% (2) Implementation of the Project (including the field survey): 83%, 65-85% (3) Management: 75%, below 60% to 85% (4) Report writing and presentation: 56%, below 60% to 85%</p>	<p><Major Activities carried out to achieve Outputs> (Procurement) • Office equipment to NCWD & the Project Office (PC, Printer, Projector, Photocopier, video, vehicle) (May 2008) • Operational equipment for courses to WDCs (sewing machine, knitting machine, grinding machine etc.) (September 2007) • Management equipment (cabinet, filing case, stationeries etc) (January to February 2008)</p> <p>(Training) • Management training to 30 persons (HOD, WDO and SMWA) (July 2007) • Training in Japan (4 persons at NCWD, September 2007), (2 persons from NCWD, 2 persons from SMWA, July 2008) (2- group training course, 8- country focused training course) • Basic PC/IT training in NCWD (8 person at NCWD) (November to December 2007) • Survey methodology training in Nigeria (14 persons: 8 from NCWD, 6 from</p>
			<p>Status of achievement of Activities (Level of implementation & achievement) for 1-1 Achievement for improved service quality for WDCs 1-2 Achievement for increased positive recognition to the target WDCs from community 1-3 Achievement for improved WDC management</p>	<p>Are activities carried out as planned for Output 1? *Refer <Output 1 ></p>
			<p>Status of achievement of Activities (Level of implementation & achievement) for Formulating draft guideline and good practice compilation</p>	<p>Are activities carried out as planned for Output 2? **Refer <Output 2 ></p>
			<p>Status of achievement of Activities (Level of implementation & achievement) for capacity development of the Project Team</p>	<p>Are activities carried out as planned for Output 3? ***Refer <Output 3 ></p>

Handwritten signature and initials: *AB 3/11* and *D-G*

Handwritten signature and initials: *AB* and a large signature

	<p>(=NCWD and Kano SMWA officials)</p>	
<p>SMWA) (January 2008)</p> <ul style="list-style-type: none"> • Skill-up training on food processing to 35 instructors (February 2008) • Skill-up training on sewing, embroidery, machine knitting and grinding to 30 instructors (August 2007) • Management training to WDO and WDC heads (January to February 2008) • Management training of WDCs to all the 6 WDCs (July- August 2008) • Trainings on food processing to 35 instructors (July 2008) • Business training (August 2008) • Training on maintenance of sewing and knitting machines for both instructors and participants (August 2008) • PC training (Word, Excel, PowerPoint) to NCWD Project members at NCWD (September 2008) 		
<p>(Survey)</p>		
<ul style="list-style-type: none"> • Baseline survey (February 2007) by short term experts (institutional analysis and social survey) • Monitoring surveys (3 times: August 2007, April 2008, October 2008) and presentation of the result of the monitoring surveys (3 times: September 2007, April 2008, October 2008) (Reporting done by the long-term experts) • Collection of good practices (May to June 2008) <p>(Workshop, Study Tour and Others)</p> <ul style="list-style-type: none"> • Workshop on formulation of action plan for FY2008 with HODs, WDOs and WDC Heads (30 persons) (January 2008) • Study Tour to 2 model WDCs in Zamfara State (53 persons) (February 2008) • Awareness creation through radio broadcasting (weekly, February to April 2007) • Workshop on graduate support (February 2008) and studies on request for support and equipment (June to July 2008) • Revision of PDM (December 2007) (approved at the 2nd JCC) • The 1st JCC (May 2008), the 2nd JCC (December 2007), the 3rd JCC (May 2008) to confirm both status of gender promotion at a macro level, and the progress of the Project • Formulation of newsletter (3 issues), HP, the Project calendar and poster, web page, Leaflet (in Japanese) (recurrent) • Visit of JICA Advisory Study Team (February 2008) • Advocacy to Kano State LGA leaders (Governor and PS) (August, September 2008) • Study Tour to sewing school and women cooperative in Kano city (WDC 		

26/11

 D-C



<p>heads, instructors, WDC participants, August 2008)</p> <ul style="list-style-type: none"> The 1st guideline forum (October 2008) Mid-term evaluation workshop (36 from NCWD Project members, SMWA, HOD, WDO, WDC head and Japanese experts) (August 2008) <p>All activities have been carried out as planned so far, and it is expected that the activities will be contributed to produce Outputs.</p> <p>1) For Output 1*: Almost all activities have been completed so far. However, it is still necessary to address LGAs to make continuous efforts in order to ensure sustainability of the Project effects such as provision of working materials, maintenance of equipment and graduate support.</p> <p>2) For Output 2**: As in Output 2, the 1st draft of guideline was formulated, and Chapter 1 was presented in the 1st guideline forum in October 2008. The guideline will be made by November 2009.</p> <p>3) For Output 3***: Capacity of the Project team members has been increasing through implementation of the Project, participation to various trainings and workshops, and day-to day basis activities with the Japanese long-term and short-term experts. Capacity of the Project team members seems to vary from person to person, and there are still needs for further capacity development.</p>			<p>Technical transfer at the 3 levels has been carried out well by various methods.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) NCWD: survey methodologies, IT/PC 2) SMWA: management, skill-up 3) WDC/LGA: management, skill-up <p>The training contents and methods are highly evaluated by the Project team and LGA/WDC staff.</p>	<p>Organizations and institutional arrangement on project management is appropriate to link and coordinate NCWD, SMWA and LGA/WDC levels. The Project monitoring survey has been carried out every 6 months (3 times up to now) in order to evaluate the progress of activities, and feed-back results to above stakeholders to share information regularly.</p>
		<p>Contents, methods, timing and targets of technical transfer</p>	<p>Are methods of technical transfer appropriate and progressed well?</p>	<p>Project Operation and Monitoring systems</p>
		<p>Progress of Technical Transfer</p>	<p>Is organizations and institutional arrangement on project management appropriate on implementation & monitoring system?</p>	<p>Institutional Set-up for Project Management</p>

26/11
D-5

	<p>Is organizations and institutional arrangement on project management effective for communication within the Project?</p> <p>Is organizations and institutional arrangement on decision making appropriate?</p>	<p>Communication systems and channel within the Project</p> <p>Decision making mechanism</p>	
	<p>Is allocation of appropriate Project team members?</p> <p>Is participation of Project team members to the Project activities active and adequate?</p>	<p>Numbers and deployment of Project team members (NCWD, SMWA)</p> <p>Project implementation and monitoring system, frequency of observatory trips to the site state</p>	<p>6 at NCWD and 4 at SMWA are appropriate to carry out the Project. There still seems to be a need on further capacity building on planning, implementation, monitoring, and evaluation and, in particular, documentation and presentation skills. ***Refer <Output 3></p>
<p>Relevance</p>	<p>Conformity of the Project Purpose to the National Development Plans of Nigeria</p>	<p>National development policy</p> <p>Gender/Community development policies</p>	<p>It is consistent with the National Gender Policy of Nigeria announced in 2006, in which gender mainstreaming is depicted as a development approach for poverty alleviation in Nigeria.</p> <p>In the Communiqué, adapted in 2006 by National Council of Women Affairs, NCWD was designated as an agency to formulate a guideline for activation of WDCs nation-wide. The Project is thus still consistent with the policy of empowering women in Nigeria.</p>
<p>Conformity with needs of beneficiaries</p>	<p>Is the selection of the pilot site adequate?</p> <p>Do the Project objectives meet with needs of the beneficiaries?</p>	<p>Selection method of pilot sites</p> <p>Changes of needs of target groups</p>	<p>Kano state was selected as a pilot site because the state is a largest commercial area in the northern region, where there was a will on activation of WDCs and to optimize the effects of other Japanese supports in the northern area.</p> <p>According to Kano State Economic Empowerment and Development Strategy (SEEDS 2005), Kano state aims to integrate women into development and economic structure that will give opportunities to women for sustainable livelihood.</p> <p>The plan that extension of assistance is 6 LGA was identified by the Preparatory Study Team in 2006 since it is found that the numbers of the pilot WDCs are adequate and geographically balanced.</p>

18-3-11
D-G

		Are there ripple effects for people other than the target group?	Ripple effects produced for people other than the target group (if any)	<p>The entire family members have influences from wives who are attending courses at WDCs. Having skills learned and income generation activities at WDCs, women started to be more self-reliant and assisting some parts of family expenses. Some women also enjoy socialization through WDCs provides a chance of networking of women.</p> <p>Responding the positive recognition from community and participants' husbands to WDCs, some LGAs started to be more interested in the WDC activities, and there are cases to increase budget for the coming Fiscal Year 2009, and preparing more spaces for WDCs such as additional WDC construction in LGAs.</p> <p>It is comforted with Japanese ODA Policy to support poverty alleviation. Women empowerment is also one of the JICA's key issues for assistant in Nigeria.</p>
	Relevance to Japan's ODA policy	Is the Project along with Japan's ODA policy to Nigeria?	Japanese ODA Policies to Nigeria	
Effectiveness	Achievement of Outputs	Is Achievement of Project Purpose by the end of the Project?	Progress of achievement to Project Purpose (Comparison with Indicators) : Contents of Guiding Framework and progress of formulation of it	<p>It is highly expected to achieve the Project Purpose as long as the current efforts continue. According to the present plan, guideline formulation based on the experiences of good practices in Kano state will be completed by November 2009. The 1st draft of guideline was formulated, and chapter 1 of it was presented in the 1st Guideline Forum in October 2008.</p>
		Are important assumptions to achieve Project Purpose satisfied?	Status and changes of external conditions	<p>There is an uncertain factor on preparation of C/P fund, in particular for NCWD, as the C/P fund in FY2008 has not been approved yet.</p>
	Factors contributed to achieve the Project purpose (Degree of achievement of Outputs)	Are adequate good practices produced?	Status of generating good practices	<p>The pilot 6 WDCs have been generating good practices such as:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Bitch WDC: There are 2 WDCs currently, and additional one is planned by LGA in order to provide opportunities for further rural area. 2) Gwale WDC: Although it lost all equipment due to an incident in 2007, LGA provided replacement of necessary equipment and resources (e.g. sewing machine) 3) Dambatta WDC: LGA supports 2 women from each ward (in total 10 wards) to attend the courses at WDC by paying transport and expenses. 4) Kumbotso: Rapid increase of participants raised JGA's awareness, leading to expansion of WDC 5) Gaya: WDO visits house to house in order to hear request for courses at WDC. 6) Gezawa: Chicken raising was started to raise income of WDC.
		Is draft guideline of good practices developed based on cases?	Status of formulation of drafting guideline	<p>Based on the good practices generated in Kano state so far, the 1st draft of the guideline was already formulated.</p>

A 3411
D-G-

		<p>Is capacity of project team (NCWD, SMWA staff) enhanced?</p> <p>Degree of influence by personnel change or resignation of C/Ps</p> <p>Are NCWD able to prepare appropriate and enough budget?</p>	<p>Training results to NCWD, SMWA staff and effects of the training</p> <p>Numbers, timing and reasons of changes and resignation of C/Ps</p> <p>Data on budget and finance of NCWD</p>	<p>As mentioned in Output 3, enhancement of capacity building of the Project team member (officials of NCWD and Kano SMWA) are on the good progress. On the other hand, there remain needs for further capacity development such as documentation and presentation skills.</p> <p>According to NCWD, 6 C/Ps (the Project team members) were reshuffled in 2007 in order to meet required qualification and to show commitment for this Project. This made reduction of numbers of C/Ps from 12 persons to 6 persons at NCWD, but did not have any negative consequences.</p> <p>C/P fund for FY 2008 has not been approved yet for NCWD, and this created problems such as insufficient travel expenses for staff to undertake the Project activities.</p>
<p>Efficiency</p>	<p>Appropriateness of quantity, quality and timing of inputs from the Japanese side</p>	<p>Are number, specialty, and timing of dispatched Japanese long-term experts appropriate?</p> <p>Are number, specialty, and timing of dispatched Japanese short-term experts appropriate?</p> <p>Are number, training contents, period and timing of counterparts training in Japan appropriate?</p> <p>Are type, quantity and timing of equipment provided from Japan are appropriate?</p>	<p>Number, expertise and length of dispatch</p> <p>Number, expertise and length of dispatch</p> <p>Records of C/P training (number, courses, training contents, length and timing)</p> <p>Types, volumes, timing of equipment provision</p> <p>Needs of both the Japanese and Nigerian sides for the Project implementation</p>	<p>Number, roles, expertise and timing of inputs for the Japanese long-term and short-term experts have been appropriate and highly evaluated. There are different opinions on duration of the short term experts.</p> <p>C/Ps dispatched to Japan show commitment to the Project and contributed motivation of the Project team members. In general, training in Japan has good effects but there are some differences among persons on reflection of the Japanese training. Some of the ex-trainees started activities such as graduate support for WDCs by using knowledge what they learned in Japan.</p> <p>Timing and volume of inputs regarding equipment is in general good while there were cases of delay of procurement. According to the interview survey to WDOs and WDC heads, inputs from the Japanese side have been effectively used. At present there is an opinion that numbers of equipment such as sewing machine at WDCs are not sufficient due to increase in participants.</p>

20/11
R
D-C


<p>Appropriateness of quantity, quality and timing of inputs from the Nigerian side</p>	<p>Are number, placement and capacity of C/Ps and others appropriate?</p>	<p>Inputs of number and deployment of C/Ps and others</p>	<p>There are 6 C/Ps at NCWD and 3 C/Ps at SMWA as the Project Team. As the Project proceeded capacity of the C/P raised.</p> <p>Deployment of the Project team members seems to be adequate. The Project team members at NCWD are composed of staff from not only a research section but a training section, and this makes the Project implementation smoothly while capacity of them varies depending on person.</p> <p>This project has no any locally hired personnel, such as secretary and driver, and instead, using personnel allocated from the Nigerian side.</p>
<p>Is deployment of Project Director and Manager appropriate?</p>	<p>Perspective of experts and C/Ps</p>	<p>Appointment of decision makers as Project Director and Project Manager of the Nigerian side was appropriate to promote implementation of the Project.</p>	<p>There are 2 office spaces allocated from the Nigerian side below. In general it is appropriate while further improvement of allocating the office space will be expected at SMWA:</p> <p>At NCWD: Office space was allocated from the beginning of the Project and necessary utilities are covered by NCWD, and Japanese experts are satisfied with the office.</p> <p>At SMWA: SMWA has maximum efforts to allocate temporarily a desk space to JICA experts. After renovation of their offices currently undertaken, they will allocate a room to the Project.</p>
<p>Quality and size of facilities and running cost associated with the facilities for the Project appropriate?</p>	<p>Perception on facilities from Japanese experts</p>	<p>Budget by Nigerian side, perception of the experts and evaluation team</p>	<p>It is necessary to secure required budget at NCWD. The C/P fund at the NCWD has not been approved yet for FY2008 so that difficulties for allocating such as travel allowance have been experienced. At Kano SMWA, necessary budget has been prepared (3.4 million Nigerian Naira for FY 2008). Some LGAs also started to show more commitment to run WDCs as they are increasing budget for WDC activities.</p>
<p>Is budget size of the Project appropriate?</p>	<p>Timing, frequency and participants of the JCCs, contents of discussions and confirmation at the JCCs</p>	<p>Is JCC functioning as it is expected?</p>	<p>The JCC is functioning as it is expected in order to share information on both status on gender equality at macro level and progress of the Project. The JCCs have been held 3 times so far.</p>
<p>Is Project meeting functioning as it is expected and communication means of the meeting is adequate?</p>	<p>Times, frequency and participants of the meeting, contents of discussions and confirmation at the meetings</p>	<p>In addition, discussions and meeting are often held as a need arises more</p>	<p>There is a regular Project meeting at least every 3 months, and they were adequately held so far. Aims of the Project meeting are confirmation on both schedules of the Project and responsibilities of the Project between the Project team members and the long-term expert.</p>

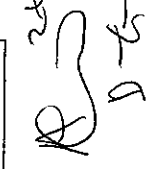
26/11
A
D-C

Factor hampered on efficiency	Are there negative factor on efficiency?	Factors inhibiting realizing efficiency	frequently between the Project team member and the long-term expert. Issues of the C/P fund should be resolved as efforts from NCWD.
<p>Prospects for achievement of the Overall Goal</p>	<p>Will the Overall Goal be achieved in 3-5 years after the completion of the project?</p>	<p>Progress/Prospect to achieve the Overall Goal</p>	<p>In Kano state, it is assumed that achievement of Overall Goal is possible since there are good practices, already generated. On the other hand at the national level, there are some concerns which have to be overcome for achieving Overall Goal.</p> <p>According to surveys in Kano state, satisfaction to the 6 pilot WDCs are increasing as well as positive recognition of the Project increases at household and community levels. For example:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) All WDOs, WDC heads and participants of the interview survey stated community people have more interest in the WDC activities, and community leaders encouraged women to attend the WDCs. 2) Some WDCs started income generation at the WDCs through pomade making, chicken raising etc. 3) More than 50% of the husbands of the participants became more supportive for wives to attend the courses, so that husbands pay transport and working materials. 4) Participants state they could contribute to household economically by using skills learned at WDCs. <p>Limitations which may be strengthened further for achieving Overall Goal are supposed to be budget and capacity of staff. For example:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) There is an uncertain factor on preparation of C/P fund for the activities at NWDC, as the fund of FY 2008 has not been approved. 2) A linkage between NCWD and states for activation of WDCs. It is necessary to strengthen the role of NCWD to support SMWA technically in order to activate WDCs. 3) Capacity of staff at NCWD and SMWA since capacity varies depending on person.

8-30/11
D-G

	Other aspects	Are there other unexpected benefits?	Influences on policies, laws, institutional set-up, social-economic impact to communities and stakeholders	<p>There are some cases of unexpected changes brought to LGAs. For example,</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Increase in budget for WDCs for expansion operation 2) Increase of numbers of WDCs to respond to increase of applicants 3) Frequent visit by the LGA officers to WDCs for monitoring 4) Replacement of equipment such as sewing and knitting machines (e.g., Gwale case; after the fire incidence, LGA procured equipment) 5) Support system of selected women to attend WDC by LGA (e.g., Dambatta case) <p>At WDCs, there are many cases such as:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Open WDCs throughout the day (having both AM and PM courses) 2) Rapid increase in applicants
Sustainability	Policy aspects	Will policy support continue after the Project?	Commitment of Ministry and SMWA, Kano Their future direction and plans	<p>Ministry: Roles of Ministry of Women Affairs and Social Development are to advocate promotion of WDCs and to maintain the policy.</p> <p>SMWA: In Kano state, activation of WDC is one of its development priorities as depicted in "State Economic Empowerment and Development Strategy" (SEEDS) in 2005. Kano SMWA has a will to follow SEEDS contiguously.</p>
	Institutional aspects	Are the visions and positioning of concerned authorities in creating the guideline for activation and management of WDC defined clearly?	Vision and positioning of concerned authorities, perception of experts and Project team	<p>NCWD: Mandate of creating the guideline for activating WDCs by NCWD is clearly stated in Communiqué adopted by National Council for Women in 2006.</p> <p>SMWA: Following State Economic Empowerment and Development Strategy (SEEDS), SMWA has a vision to maintain its structure to support WDCs.</p>





 D-6

<p>Organizational aspects</p>	<p>Do concerned authorities have enough operation and management capabilities to sustain the effects generated thorough the Project after the Project completion?</p>	<p>Perception of Japanese experts and C/Ps</p>	<p>NCWD: It is prospected that NCWD has capacity to monitor activation and management of WDCs using the guideline to be made in 2009, although further personnel capacity development seems to be required.</p> <p>SMWA: Managerial and operational capacities to implement and to monitor the Project have been increasing at SMWA since there seems to be good decision making and division of labour.</p>
<p>Financial aspects</p>	<p>Do concerned authorities have enough financial capabilities to sustain the Project effect?</p>	<p>Budget /finance of concerned authorities, Perception of Japanese experts and C/Ps</p>	<p>NCWD: There is a concern on preparation of budget preparation as FY 2008 has not been approved yet. This uncertainty may cause a problem to implement necessary activities in a smooth manner.</p> <p>SMWA: It is foreseen that SMWA is able to secure required budget for continuation of the activities in WDCs after completion of the Project. According to Director of SMWA, about 3.4 million Nairas are allocated as budget for activation of WDCs in FY2008.</p> <p>LGA/WDC: WDOs and WDC heads might be as a part of decision making for planning of budgeting for WDCs. at LGAs.</p>
<p>Technical aspects</p>	<p>Is capacity of Project team members and staff of LGAs/WDCs, developed by the Project continue for empowering women</p>	<p>Perception of Japanese experts and C/Ps</p>	<p>Level of capacity of Project team members and staff of LGAs/WDCs has been increasing in general while there are needs of further development of capacity through continuous training.</p>

Handwritten notes: 26/11 and V-G

Handwritten signatures and initials at the bottom of the page.

評価グリッド ナイジェリア女性の生活向上のための女性センター活性化支援 中間評価調査 (結果)

2. 評価グリッド(和文)

5 項目	評価設問		必要なデータ	進捗・成果達成状況
	大項目	小項目		
実績の検証	投入の実績の検証	ナイジェリア側からの投入は計画どおりか、(PDM ならびに PO における計画との比較)	専門家 (専門分野)、CP 配置、予算、機材・施設、投入のタイミング	<p><ナイジェリア側></p> <ol style="list-style-type: none"> CP 配置(プロジェクトチーム) <ol style="list-style-type: none"> NCWD : のべ15名 (2008年10月現在、6名) カノ州女性社会開発省 : 4名 (参加者として LGA レベル : 18名) 活動経費と資機材・施設 <ol style="list-style-type: none"> NCWD : FY2008 の C/P ファンドは未承認 カノ州女性省 : FY2008 : 3.4 百万ナイラ プロジェクト実施、管理・支援体制 <ol style="list-style-type: none"> NCWD : 実施機関 SMWA : 実施機関・6パイロット WDC の監督・モニタリング機関 施設 : NCWD にプロジェクト事務所、カノ州女性省にプロジェクトスペース有
		CP 配置	人数、役職、専門分野	
	活動経費・資機材投入	活動経費・資機材投入額、内容・時期	プロジェクト実施、管理、支援体制	
	日本側からの投入は計画どおりか (PDM ならびに PO における計画との比較)	投入時期、内容		
	専門家派遣	人数、専門分野、派遣時期		
	本邦・現地での C/P への研修	人数、専門分野、時期		
	資機材	種類、数量、投入目的		
	現地活動費	予算と支出内容		
	アウトプット1 達成度	アウトプット1 達成度 : WDC でグッドプラクティスが生み出されてきているか (PDM ならびに PO における計画、指標との比較)	1-1 WDC のサービスの質の向上の達成度 1-2 コミュニティから WDC への肯定的な認識の向上の達成度 1-3 WDC のマネージメントの質の向上の達成度	<p>全てのアウトプットの達成の見込みは高い。下記は中間評価時の聞き取り調査、プロジェクトでの3度のモニタリング調査、専門家による進捗報告書を基に分析した。</p> <p><アウトプット1></p> <ol style="list-style-type: none"> 1-1 WDC のサービスの質の向上の達成度 (講師のスキルレベルの向上、教材の種の増加、WDC 機材の整備)
	アウトプット2 達成度 (PDM ならびに	アウトプット2 達成度 (PDM ならびに	ガイドラインの作成進捗	

評価ドリット ナイジェリア女性の生活向上のための女性センター活性化支援 中間評価調査 (結果)

		<p>POにある計画、指標との比較) アウトプット3 達成度 (PDMならびにPOにある計画、指標との比較)</p>	<p>C/Psの能力向上 (計画策定、プロジェクト実施、管理、報告・発表)</p>	<p>1-1-1 WDC 参加者が見た WDC のサービスの質への満足度:3 度のモニタリング調査と聞き取り調査によれば満足度は向上している。</p> <p>(1) WDC カリキュラム: 現在、各 WDC は独自の研修計画とシラバスを採用している。WDC 参加者のカリキュラムへの満足度は高いが、WDC からは統一カリキュラム開発の要望が出ている。</p> <p>(2) WDC 講師: プロジェクトによるスキルアップ研修等を通じ、講師の能力は向上している。しかし、WDC 参加者の返答ではモニタリング調査と聞き取り調査では意見が分かれる。講師への満足度は第3 回モニタリング調査では68-84% (100% を完全満足度として)となっている。一方、聞き取り調査では、講師の質は不十分あるいは講師人数の不足を指摘する意見もあった。</p> <p>(3) 施設: 満足度は25-57%であった。</p> <p>(4) 卒業生支援: 2008 年8 月にビジネス研修が実施され、回診資金方式による資機材の提供が検討されてきた。満足度は26-49%となっている。</p> <p>(5) 資機材: 資機材への満足度は高く、70-83%となっている。WDC 参加者は資機材の満足度は高いが、他方、参加者の増加による資機材の不足が生じる可能性も懸念している。</p> <p>(6) 製作用の資材: その多くは LGA からの予算、参加者からの持参品で調達されている。モニタリング調査の結果ではその満足度は3-30%から55-72%へ上昇している。WDC から LGA への要望に対する反応は対応が早くなっている。</p> <p>1-1-2. 各 WDC での WDC のサービスに対するニーズの把握の改善: アドホックベースでの努力はなされてきているが今後も体系的なニーズ把握の努力を講じる必要がある。</p> <p>###</p> <p>1-2 コミュニティから WDC への肯定的な認識の向上の達成度: コミュニティ、参加者の夫、非 WDC 参加者からの WDC の活動への認識は高まっている。</p> <p>1-2-1. コミュニティ、参加者の夫、非 WDC 参加者からの WDC の活動への認識: モニタリング調査によれば、それぞれ認識は下記のとおり高まっている。</p>
--	--	--	---	---

評価ドリット ナイジェリア女性の生活向上のための女性センター活性化支援 中間評価調査 (結果)

			<p>(1) 夫: 90-98% (100%を最高の満足度として) (2) コミュニティ: 91-97% (3) 非WDC参加者: 81-93% 聞き取り調査では60%の返答者が夫からの認識、80%の返答者がコミュニティからの認識の高まりを指摘した。</p> <p>1-2-2. 各WDCでのWDCのサービスの質に対するニーズの把握の改善:パイロットWDCのほとんどはコミュニティからの認識は以前よりも高まっている (Cezawa WDCを除き)。</p> <p>1-2-3. WDC参加者のエンパワーメントへの継続的な改善</p> <p>###</p> <p>1-3 WDCのマネージメントの質の向上の達成度: モニタリング結果の比較からは向上している。重要性の理解も高まっている。年間計画、記録などの管理の改善が見られる。</p> <p>1-3-1. WDCのマネージメントの質の向上の達成度: WDCのマネージメントの重要性は認識されている。返答者は下記のような改善を指摘した。 (1) 労働環境: 63-100% (2) 管理記録・ファイリング: 27-93% (3) 報告・フィードバック: 0-71%</p> <p>1-3-2. WDCのマネージメントの質の向上のための重要な要素の改善度: 返答者から見た改善の度合い: (1) 職員配置: 54-85% (2) 予算: 14-71% (3) リーダーシップ: 83-100% (4) 意思決定: 45-82% すべてのパイロットWDC校長とWDO(女性開発オフィサー)が管理面、特に記録簿管理が大きく改善し、以前に比べWDCのスムーズな運営に貢献していると指摘している。</p> <p><アウトプット2> 2. POに従った計画どおりのガイドラインの修正 (1)2008年9月にガイドライン案が作成された。</p>
--	--	--	---

評価ドリット ナイジェリア女性の生活向上のための女性センター活性化支援 中間評価調査 (結果)

				<p>(2)2008年10月に第1次ガイドラインフォーラムが開催された。</p> <p><アウトプット3></p> <p>3. プロジェクトチームの能力強化 プロジェクトチームメンバーの自己評価(前者%)と日本人専門家による評価(後者%)は下記のとおりであり、多少の差が見られる。</p> <p>(1) 計画能力：77%、60%以下-85% (2) プロジェクト実施能力(フィードバック含む)：83%、65-85% (3) 管理能力：75%、60%以下-85% (4) 報告書記述とプレゼンテーション能力：56%、60%以下-85%</p>
<p>実施プロセスの検証</p>	<p>活動進捗の検証</p>	<p>アウトプット1のための活動は計画通り実施されているか (1) アウトプット1*参照)</p> <p>アウトプット2のための活動は計画通り実施されているか (2) アウトプット2***参照)</p> <p>アウトプット3のための活動は計画通り実施されているか (3) アウトプット3****参照)</p>	<p>活動の達成状況(実施レベルと達成)：</p> <p>1-1 WDCのサービスの質の向上のための諸活動と実施スケジュール</p> <p>1-2 コミュニティからWDCへの肯定的な認識の向上のための諸活動と実施スケジュール</p> <p>1-3 WDCのマネージメントの質の向上のための諸活動と実施スケジュール</p>	<p><アウトプット達成のための主な活動> (調達)</p> <ul style="list-style-type: none"> NCWDのオフィス機器、プロジェクト事務所の機材(PC、プリンター、プロジェクター、コピー機、ビデオ、車両)(2008年5月) WDCコースのための運用資機材(ミシン、機械編み機、搾油機、等)(2007年9月) 管理用資機材(キャビネット、ファイリング用ケース、文具等)(2008年1-2月) <p>(研修)</p> <ul style="list-style-type: none"> マネージメント研修：30名(HOD、WDOとSMWA)(2007年7月) 本邦研修(NCWD：4名、2007年9月)、(NCWD：2名、SMWA:2名、2008年7月)(2名：グループ研修、8名：個別研修) 基礎PC/IT研修(於NCWD)(8名：NCWD)(2007年11-12月) 調査手法研修(於Nigeria)(14名：NCWD：8名、SMWA:6名)(2008年1月) 食品加工スキルアップ研修：35講師(2008年2月) ミシン、刺繍、機械編みスキルアップ研修：30講師(2007年8月) WDO、WDC校長へのマネージメント研修(2008年1-2月) WDO、6パイロットWDC校長へのマネージメント研修(2008年7-8月) 食品加工研修：35講師(2008年7月) ビジネスマネージメント研修(2008年8月) ミシン、編み機のメンテナンストレーニング：講師、参加者(2008年8月) PC研修(Word、Excel、PowerPoint)：NCWDプロジェクトチームメンバー(於NCWD)(2008年9月)

評価ドリット ナイジェリア女性の生活向上のための女性センター活性化支援 中間評価調査 (結果)

			<p>(調査)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ベースライン調査 (2007年2月) : 短期専門家 (組織分析、社会調査) ・ モニタリング調査 (3回) : 2007年8月、2008年4月、2008年10月)、モニタリング調査結果プレゼンテーション (3回) : 2007年9月、2008年4月、2008年10月)(長期専門家による報告書作成) ・ グッドプラクティスの収集 (2008年5-6月) <p>(ワークショップ、スタディツアー、他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アクシヨンプラン策定ワークショップ (FY2008) : HOD、WDOs、WDC 校長 (30名)(2008年1月) ・ Zamfara 州、2モデルWDC 訪問ツアー (53名)(2008年2月) ・ ラジオ放送による意識化促進 (2007年2-4月) ・ 卒業生支援ワークショップ (2008年2月)、資機材提供などの支援調査 (2008年6-7月) ・ PDM 改定 (2007年12月)(第2回JCCで承認) ・ 第1回JCC (2008年5月)、第2回JCC (2007年12月)、第3回JCC (2008年5月) : 全国でのジェンダー促進確認とプロジェクト進捗確認 ・ ニュースレター作成 (3版)、HP、プロジェクトカレンダー→ポスター作成、パンフレット作成 (和文)(継続中) ・ 運営指導調査団 (2008年2月) ・ カノ州 LGA リーダーへのアドボカシー(2008年8-9月) ・ 縫製学校、女性組合への訪問ツアー (WDC 校長、講師、WDC 参加者、2008年8月) ・ 第1回ガイドラインフォーラム (2008年10月) ・ 中間評価ワークショップ (NCWD、SMWA、HOD、WDO、WDC 校長、日本人専門家 : 36名)(2008年8月) <p>すべての活動は計画通りに実施されてきた。活動はアウトプットの達成に貢献するものと考えられる。</p> <p>1) アウトプット I*: (ほぼすべての活動がすでに終了している。一方、LGA が生産用資材や資機材の提供や卒業生支援などの自立性確保を促すための活動の継続が必要である。)</p> <p>2) アウトプット 2** : ガイドライン案の第1版草案は完成し、1章が2008年10月のガイドラインフォーラムで発表された。ガイドラインは2009年11月の</p>
--	--	--	--

評価グリッド ナイジェリア女性の生活向上のための女性センター活性化支援 中間評価調査 (結果)

				<p>完成予定である。</p> <p>1) アウトプット 3*** : プロジェクトチームメンバーの能力はプロジェクト実施やさまざまな研修機会、ワークショップの参加、日本人長期・短期専門家と日々の活動を通じて向上している。ただし、人によりその差があるのが現状でありさらなる能力強化が必要である。</p> <p>技術移転は3つのレベルにおいて様々な方法で実施されてきた。その主な内容は下記のとおりである。 1) NCWD : 調査手法、IT/PC 2) SMWA : マネージメント、スキルアップ 3) WDC/LGA : マネージメント、スキルアップ</p> <p>以上の研修内容や方法はプロジェクトチームメンバーやLGAWDC 職員には高く評価されている。</p> <p>プロジェクトマネージメントの組織と体制はNCWD、SMWA とLGAWDC の3レベルを連携、調整する形で適切に実施されてきた。プロジェクトのモニタリング調査は活動の進捗を測るために半年毎にすでに3回実施され、利害関係機関には情報共有とフィードバックが行われてきた。</p> <p>NCWD 6名、SMWA 4名が配置されており、その人数はプロジェクトの実施には適切である。一方で、計画、プロジェクト実施、モニタリング、評価、特に文書作成やそのプレゼンテーションの能力の点では更なる強化が必要である。***参照 <アウトプット 3></p> <p>プロジェクト目標は 2006 年に発表されたナイジェリアの国家ジェンダー政策に合致している。この政策はナイジェリアの貧困削減へのアプローチとしてジェンダー主流化を謳っているものである。</p> <p>また 2006 年に全国女性評議会 (National Council of Women Affairs) が採択したコミュニケーションによれば、本プロジェクトのカウンタートパート機関である国立女性開発センター (National Centre of Women Development: NCWD) にとって全国の女性開発センター (Women Development Centre: WDC) の活性化に関するガイドラインの作成はそのマーンデートとなっており、その点においてもNCWD を支援することは妥当性が高い。</p>
<p>妥当性</p>	<p>ナイジェリアの国家計画との整合性</p>	<p>女性のエンパワメントは国家計画の中でどのように位置づけられるか</p>	<p>ナイジェリアの国家開発政策、ジェンダー政策、コミュニケーション開発政策</p>	
<p>プロジェクトのマネージメント体制の適切さ</p>	<p>プロジェクトの実施・モニタリングの仕組みはあるか、有効なものか プロジェクト内の意思疎通の仕組みは有効なものか 日本側・ナイジェリア側意思決定過程は有効なものか</p>	<p>プロジェクトの実施・モニタリングの仕組み・方法 意思疎通手段、その妥当性・有効性 意思決定方法、その妥当性・有効性</p>		
<p>プロジェクトチームメンバーの配置</p>	<p>プロジェクトチームメンバーは適切に配置されているか プロジェクトチームメンバーのプロジェクトへの参加は十分であるか</p>	<p>プロジェクトチームメンバーの配置数・配置 (NCWD、SMWA) プロジェクトチームメンバーによるプロジェクト実施・モニタリング体制、視察頻度</p>		

評価グリッド ナイジェリア女性の生活向上のための女性センター活性化支援 中間評価調査 (結果)

	<p>受益者ニーズとの整合性</p>	<p>ターゲットサイトの設定は適切か プロジェクト目標は受益者のニーズに合致しているか ターゲットグループ以外への波及効果はあるか</p>	<p>ターゲットグループの選定方法 ターゲットグループのニーズの変化の有無 ターゲットグループ以外への社会的影響などの波及効果 (あれば)</p>	<p>以上からも、本プロジェクトはナイジェリアの女性のエンパワーメントの方針に一致するものである、と判断される。 カノ州がパイロット対象地域として選定された理由は、WDC 活性化への意欲があったこと、ナイジェリア北部最大の商業地域として他地域への影響力が期待できることが挙げられる。また、同地域への日本の他案件の支援効果の最大化も意図している。カノ州経済開発戦略 (Kano State Economic Empowerment and Development Strategy: K-SEEDS 2005) (において女性の生計向上のために女性の経済構造への参加促進を目指しており、州の方針とも合致している。 パイロット対象の6 WDC は2006年の事前調査時に選択され、対象数の6ヶ所は地理的な分布の点からも適切であった、と判断される。 本プロジェクトの結果、女性がWDCのコースに参加することで、家族全体へ好影響を与え始めている。モニタリング調査や聞き取りなどの調査結果ではWDCでスキルや収入創出の活動の機会を得ることで女性は自立性を高め、家族の生計の一部を負担する、傾向も見られるようになった。またそれらの女性間でネットワークを作る機会が増えるなど、社会生活の楽しみを受容する例も見られている。 コミュニティあるいは、参加者の夫からのWDCへの好意的な認識も高まり、いくつかの地方政府 (LGA) では2009年度のWDCの活動予算の増加や新たなWDCの建設を予定している。</p>
<p>有効性</p>	<p>日本のODA政策との整合性</p>	<p>プロジェクトと日本のODA政策との整合性</p>	<p>日本の対ナイジェリア援助政策・方針</p>	<p>本プロジェクトは日本のODA大綱での貧困削減への支援、ならびに外務省・JICAの国別支援の重点課題のうち、女性のエンパワーメントにも一致していることから妥当性は確保されていると判断される。 本プロジェクトの有効性は高く、今後もその効果は増加するものと判断される。アウトプット2に関して、WDC活性化のためのガイドラインは、2008年10月に第1章のドラフトが完成、中央レベルでフォーラムが実施され、2009年11月に全編完成の予定である。 特に中央レベルのカウンタートーナメント機関であるNCWDの予算確保が困難な状況にあり、不確実な要因となっている。これは2008年会計年度のカウンタートーナメントが承認されていないことに拠る。</p>
	<p>アウトプットの達成</p>	<p>プロジェクト目標は達成されるか</p>	<p>プロジェクト目標にかかるとの達成度 (指標との比較) : ガイディング・フレームワークの内容、作成進捗状況</p>	
	<p>プロジェクト目標達成の前提となる外部条件は満たされるか</p>	<p>プロジェクト目標達成の前提となる外部条件の状態と変化</p>		

評価グリップド ナイジェリア女性の生活向上のための女性センター活性化支援 中間評価調査 (結果)

	<p>目標達成に貢献した要因(アウトプットの達成度)</p>	<p>グッドプラクティスは適切に生み出されてきたか</p> <p>グッドプラクティスに基づくガイドラインのドラフトの作成がされてきたか</p> <p>NCWD、SMWA スタッフの能力向上の達成度</p> <p>プロジェクトチームメンバーの異動や辞任がプロジェクト進捗に影響した度合いは</p> <p>NCWD (相手実施機関) は十分な予算配置を行ったか</p> <p>長期専門家の派遣人数、専門分野、派遣時期は適切か</p> <p>短期専門家の派遣人数、専門分野、派遣時期は適切か</p> <p>日本での研修受入れ人数、分野、研修内容、研修期間、受入れ時期は適切か</p>	<p>グッドプラクティスの事例の発現とその状況</p> <p>ドラフトの作成状況</p> <p>NCWD、SMWA スタッフへの研修実績とその成果</p> <p>プロジェクトチームメンバーの異動あるいは辞任の人数・時期・理由</p> <p>NCWD の予算配置、財政データ</p> <p>長期専門家の派遣人数、専門分野、派遣時期</p> <p>短期専門家の派遣人数、専門分野、派遣時期</p> <p>研修員受入れ人数、分野、研修内容、研修期間、受入れ時期</p>	<p>カノ州のパイロット WDC では下記に見られるグッドプラクティスの事例が発現しつつある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 新たな WDC の建設が村落部に予定されている。(Bichi) 2) 2007 年に焼失した WDC への資機材が LGA により新たに調達された。(Gwale) 3) LGA が各ワード(サブ区: 全部で 10 サブ区)から女性各 2 名を選出し、WDC への参加を交通費の面で支援している。(Dambatta) 4) 参加者数の急増により WDC の拡張が予定されている。(Kumbotso) 5) WDO (女性開発オフィサー) が WDC での研修コースの要望を聞くために家庭訪問をしている。(Gaya) 6) WDC の収入創出のため養鶏を行っている。(Gezewa) <p>カノ州でのグッドプラクティスの発現を踏まえ、ガイドラインの第 1 版ドラフトを作成済みである。</p> <p>アウトプット 3 に示すとおり、プロジェクトチームメンバー (NCWD、SMWA スタッフ) の能力は向上してきている。ただし、人によりその能力差があるのが現状であり、特に文書作成とプレゼンテーションスキルの能力強化が更に必要である。</p> <p>NCWD に拠れば 2007 年に新たに 6 人のプロジェクトチームメンバーが選定された。このメンバーは必要資格・能力を備えやプロジェクトに対する参加意思もあり、当初の 12 人から人数が減ったものの、問題は生じていない。</p> <p>2008 年は C/P ファアメントは未承認のままであり、プロジェクトの活動実施のうえで交通経費の不足などの問題を生じている。</p> <p>日本人長期専門家、短期専門家の人数、役割、専門性や派遣のタイミングは適切であり、高く評価されている。短期専門家の派遣期間には異なる意見がある。</p> <p>日本研修に派遣されたプロジェクトチームメンバーはプロジェクトへのコミットや意欲を示している。概しても日本での研修効果は高いが、人によりその成果の差がある。研修生によっては日本で得た知識を活用して WDC の卒業生支援等の活動を新たに開始している。</p>
<p>効率性</p>				

評価ガイド ナイジェリア女性の生活向上のための女性センター活性化支援 中間評価調査 (結果)

<p>ナイジェリア側投入の適切さ</p>	<p>供与機材の種類、量、設置時期は適切か</p>	<p>供与機材の種類、量、投入時期、日本側・ナイジェリア側のプロジェクトへの資機材のニーズ</p>	<p>資機材の投入の時期や量は概して問題なかったが、調達が遅れた場合があった。WDC や WDC 校長への聞き取り調査の結果では、日本側の投入は効果的に活用されている。現在、参加者の増加によりミシンの等の資機材の数は不足傾向にある。</p>
<p>プロジェクト管理の役割分担などの体制の適切さ</p>	<p>プロジェクトチームメンバーの人数、配置状況、能力は適切か</p>	<p>プロジェクトチームメンバーの人数・配置状況</p>	<p>NCWD 6名、SMWA 3名が適切に配置されており、プロジェクト進捗とともに能力は増加している。</p> <p>NCWD では研究部門だけでなく、研修部門の職員も配置され、各人の能力差はあるものの、その構成により様々な研修や活動をスムーズに行うことができています。</p> <p>本プロジェクトではプロジェクト専門のローカル雇用者(運転手、秘書等)はおらずナイジェリア側からの供給により配置がなされている。</p>
	<p>プロジェクトダイレクター、マネージャー、WDC 校長、講師、スタッフの配置は適切か</p>	<p>日本人専門家による左記人材の配置と専門性の満足度</p>	<p>プロジェクトダイレクター、マネージャーといった意思決定者の任命はプロジェクトの実施上、適切である。</p>
	<p>建物・施設の質、機器・機材・資材の量と質、タイミンングに問題はないか</p>	<p>日本人専門家の認識</p>	<p>ナイジェリア側からは2ヶ所のオフィスが適切に供与されている。SMWA では、今後の事務所の改築に伴い新しい事務所が供与される予定である。</p> <p>NCWD: プロジェクト開始当初から事務所が供与され、必要な光熱費なども NCWD による負担されており専門家満足している。</p> <p>SMWA: 最大限の努力として専門家用の机のスペースを準備しており、事務所の改築後には新しい事務所が供与される予定である。</p>
	<p>プロジェクトの予算は適正規模か</p>	<p>プロジェクト予算 (ナイジェリア側)、日本人専門家と評価調査団の認識</p>	<p>NCWD: 予算確保が課題である。NCWD のカウンタートパートファンドが2008年に承認されておらず、交通費などに支障が発生している。</p> <p>SMWA: 必要な予算は確保されている。(2008年3.4百万ナイラ)</p> <p>LGA: いくつものLGAではWDCの活動に対するコミットを強め、来年度の予算増加の準備を行っている。</p>
	<p>JCCは適切に機能したか</p>	<p>JCC開催の回数、頻度、参加者、決定内容</p>	<p>JCCは半年毎、これまでに3回開催された。マクロレベルのジェンダー平等の情報やプロジェクト進捗のための情報共有の機能を適切に果たしてきている。</p>

評価グリッド ナイジェリア女性の生活向上のための女性センター活性化支援 中間評価調査 (結果)

		プロジェクト内ミーティングは定期的に行われたか、意思疎通はよいか	ミーティング開催の回数、頻度、参加者、決定内容	3ヶ月毎の定例ミーティングが適切に行われてきている。ミーティングの目的は長期専門家とプロジェクトメンバー間のスケジュールと責任分担の確認である。これに加え、必要に応じて随時、専門家とメンバーの間で打ち合わせが行われている。
インパクト	効率性を阻害した要因	その他の阻害要因	その他の阻害要因 (あれば)	NCWD でのカウンタートパーフトアバンドの準備への問題解決が望まれる。
	上位目標の達成の見込み	上位目標はプロジェクト終了後3-5年に達成されるか	上位目標達成への進捗見込み	<p>カノ州ではすでにグッドプラクティスの事例が発現しており、上位目標の達成は可能であると判断される。</p> <p>カノ州での調査では6パイロットWDCへのコミュニティなどからの肯定的な認識が生まれている。たとえば：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 聞き取り調査ではすべてのWDO、WDC 校長は コミュニティ住民はWDC の活動への関心を高めていることと、コミュニティリーダーがWDC 参加を奨励していると指摘した。 2) いくつかのWDC ではポマード作りなどの収入創出などの活動が始まっている。 3) 返答者のうち、50% 以上の夫が妻のWDC 参加に好意的であり、交通費や資材購入などを支援している。 4) 参加者はWDC で得たスキルによって、家計に貢献できる、と返答している。 <p>上位目標達成のために今後さらに推進すべき事項として、予算配置とスタッフの能力強化がある。たとえば：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) NCWD での予算配置 2) WDC 活性化のためのNCWD と州の連携の確保 3) NCWD とSMWA のスタッフの能力強化(現在には人によりばらつきがある)
その他の波及効果	当初予想しなかった正の影響はあるか	政策・法律・制度などの整備、対象社会・プロジェクト関係者等への社会・経済的影響等	<p>下記のような肯定的な変化が起きている。</p> <p>LGA :</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) WDC の活動拡大のための予算増加 2) WDC の増設 (参加者増加のため) 3) LGA 職員のWDC 訪問の増加 (モニタリング) 4) ミシン等の資機材の交換や配置(例：Gwale WDC：火災後の資機材調達等) 5) LGA によるWDC 参加者の選定と通学の支援 (例：Dambatta WDC) <p>WDC :</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) WDC の開所時間の延長 (午前、午後の両コース設置) 2) 参加者(希望者含む)の急増 	

評価グリッド ナイジェリア女性の生活向上のための女性センター活性化支援 中間評価調査 (結果)

自立発展性	政策面	プロジェクト終了後に政策的支援が継続するか	女性省、NCWD のコミットメント、今後の方針や計画	<p>女性社会開発省： 省の役割は WDC の活動のアドボカシーと 政策の維持である。</p> <p>SMWA： カノ州では WDC 活性化は経済開発戦略 (SEEDS 2005) にも記載され、その意思も確固としている。</p>
	制度面	WDC 活用促進へのビジョン、位置づけは明確か	関係機関による位置づけ、日本人専門家・C/P の認識	<p>NCWD： 全国の WDC 活性化のガイドライン作成は NCWD のマンドレートである (2006 年全国女性評議会のコミニケで採用)。</p> <p>SMWA： 経済開発戦略 (SEEDS 2005) にあるとおり、WDC 活性化のビジョンや方向性を有している。</p>
	組織面	関係機関にプロジェクト終了後に効果を持続するための運営管理能力は備わっているか	日本人専門家・C/P の認識	<p>NCWD： NCWD が 2009 年以降にガイドラインを活用して WDC の活性化のモニタリングと管理を行う能力は備えていると考えられる。他方、人材能力の強化にはまだ課題がある。</p> <p>SMWA： プロジェクト実施の管理と運用の能力は拡大している。意思決定と役割分担は問題なく稼働している。</p>
	財務面	関係機関にプロジェクト終了後に効果を持続するための財務能力は備わっているか	予算配置、財政データ 日本人専門家・C/P の認識	<p>NCWD： 2008 年のカウンタートファンドは承認されておらず、懸案となっている。プロジェクトのスムーズな実施の支障となっている。</p> <p>SMWA： SMWA は将来的にも WDC 活性化を支援するだけの必要な財政能力は備えていると判断される。2008 年は約 3.4 百万ナイラ の予算であった。</p> <p>LGA/WDC： WDO と WDC 校長が WDC の予算準備や計画時に参加することの奨励</p>
	技術面	プロジェクトで得られたプロジェクトチームメンバー、LGA/WDC 職員的能力が女性のエンパワーメントのために持続するか	日本人専門家・C/P の認識	<p>プロジェクトチームメンバーと LGA/WDC 職員の能力は向上しているが今後の更なる研修も必要である。</p>

3. 面談録

1. Kano State, Ministry of Women Affairs & Social Development (SMWA)

日 程	2008年11月19日、21日
面談者	Ms. Maimumna Khalil, Commissioner
<p>プロジェクトの達成や研修の実施、特に専門家による能力強化支援（LGA 含む）には感謝している。また日本への研修も有効である。10月に実施されたワークショップ（第1回ガイドラインフォーラム）はパイロット対象地域以外の他州にも応用が可能なもので、有用であったと感じる。プロジェクトで生み出したものはナイジェリアの環境に適用できる内容なので、これからも同様な支援を望む。</p> <p>州レベルの多目的女性開発センター（WDC）を来年度に建設する。託児所やホステルも含む総合的なものである（設計見本あり）。</p> <p>SMWA では 2008 年度予算で 3 つの WDC、2009 年度でそれ以上の数の WDC 建設を支援する予定である。</p>	

日 程	2008年11月12日、20日
面談者	Ms. Aishatu Atiku, Director
<p>州レベルでのジェンダー政策や戦略は作成されていないため、国家ジェンダー政策（2006）に沿ってジェンダー主流化促進あるいは配慮に係る活動、戦略を展開している。また、州では 2005 年に出版された “ Policy Framework & Projects Summary ” に従い、女性のエンパワーメントに係る活動を実施している（第 6 章の Economic Empowerment Programme に WDC 活性化パイロットプロジェクト案の記載あり）。</p> <p>州の各省でジェンダー・デスクオフィサー（各省のジェンダー主流化担当）を配置する計画がある。</p> <p>SMWA の 2008 年度の JICA 支援に関する WDC 活性化活動費は 340 万ナイラであった。2009 年度は合計で数百万ナイラを予定している。100 万ナイラは SMWA の独自予算であるが（これ以上の独自予算の配分はシーリングもあり困難） それ以外は Ministry of Budget and Economic Planning から配当されるカウンターパート（C/P）予算を期待している。その予算のほとんどはワークショップや研修参加への日当、交通費へ充当される〔2008 年度と 2009 年度（提案）予算書のコピーを入手〕。</p> <p>（デスクオフィサー 2 名のうち 1 名が退職の可能性があるとの情報があったため、質問したところ）今後も継続してプロジェクトのデスクオフィサーを 2 名、配置することが可能である。必要であれば、2 名以上の配置にも対応できる。</p> <p>2009 年度予算から 14 億ナイラで州立多目的 WDC が建設される。既に土地は確保され（大学の近く） para-statal 機関として運営される予定である。</p> <p>現在 SMWA が注力しているのは、女性への識字教育、女性の経済的エンパワーメント、意識変容促進の 3 つである。</p>	

2 . Kano State, Ministry of Local Government

日 程	2008年11月19日
面談者	Mr. Abdumalik Yakub, Permanent Secretary (Other directors 数名：発言ほとんどなし)
<p>(上田団員) プロジェクトでのこれまでの効果を生かすためにも、カノ州で開催するワークショップなどに LGA スタッフが参加しやすいような配慮、WDC の施設の給排水施設、電気などの維持管理や活動材料の供給、WDC 卒業生支援を依頼したい。また、WDO と WDC 校長が WDC 活動の予算計画に参与(必要な経費などの資料を整理して報告するなどの形で) できるようにしてほしい。</p> <p>(Mr. Abdumalik) 自分は官僚出身でなく、ドナー機関で働いた経験が 17 年あり、またジェンダー訓練も受けているので、その概念やドナー機関の動きも理解している。これまでの JICA 支援の存在に感謝する。上記の依頼は理解した。州 LGA も JICA がどの程度、金銭的な支援が可能か通知してくれれば不足分の充当をできるように手配をしたい。一方で、UNICEF や USAID のように C/P への報酬を考慮してくれることも必要であると思う。評価ではうまくいっていない点などを明らかにして、教えてほしい。</p> <p>(Mr. Abdumalik) 現在準備中である、各 LGA の来年度の予算計画では、WDC 活動予算をコミュニティ開発部門から分けて記載するよう改善したい。</p> <p>(Mr. Abdumalik) 11 月 26 日の JCC への州 LGA からのディレクターの派遣を約束する。</p>	

3 . Kano State, Deputy Governor

日 程	2008年11月21日
面談者	Mr. Tijjiani Gwano, Deputy Governor (プレス会議にて)
<p>(武藤団長) 調査結果と評価概要の報告</p> <p>(Mr. Tijjiani Gwano) 日本からの協力に (無償案件などへの他の協力もあわせて) 感謝する。特に訓練や能力強化は有用である。評価結果が良いものであることを祈り、評価から更に学びを得たい。カノ州では最近、州の Youth Development Centre (若者向けの職業訓練校) が完成したが、来年度は州立多目的 WDC を建設する。今後は電力分野の開発にも支援を期待する。</p>	

4 . Bichi LGA

(対応可能であった 2 カ所の LGA の HOD への聞き取りのみ)

日 程	2008年11月12日
面談者	Mr. Salijh Tijjani, Head, Community Development Department
<p>プロジェクト効果には大変満足。特に農村女性への訓練がよい。またコミュニティや夫が WDC の存在を認知するようになった。学びの場として認知されてきている。</p> <p>プロジェクトにより、WDC の参加者が増加したことも大きな成功である。</p> <p>プロジェクト効果を他の WDC に普及することは可能である。</p> <p>日本からの投入はすべてとても有効に活用されており、特にマネジメント研修が有用であった。またコミュニティ開発局でも WDC の監督を以前に比べよくなるようになった。</p>	

Bichi はカノ州内の 44 LGA のうち、4 番目に予算配分が大きい。そのうち 2008 年度は 500 万ナイラを WDC 活動に配分しており、2009 年度は予算拡大が予定されている。

5 . Kumbotso LGA

日 程	2008 年 11 月 20 日
面談者	Mr. Ubale Yari, Head of Social Development Department
<p>プロジェクト効果には大変満足している。特に各種研修と機材の提供に感謝している。またナイジェリアと日本のインターアクションが深まり、よかったと感じている。</p> <p>プロジェクトにより、WDC の参加者は増加していることが最大の効果である。またコミュニティへ外国人が訪問することの刺激や話題性も大きく、良い影響がある。</p> <p>プロジェクト効果は他の WDC に普及することは可能である。ただし、予算や設備の増加が前提である。この点で LGA が中心的役割を担うべきことは承知している。</p> <p>日本からの投入はすべてとても有効に活用されている。特に資機材が有効である。</p> <p>LGA による WDC の活動の自立発展性確保は必須の課題であり、これまでの成果（スキル、知識）を失わないようにすべきである。</p> <p>LGA レベルでの女性やジェンダーに特化した政策や戦略はない。女性組合の組織化支援（現在 121 が登録）などは積極的に行っている。</p> <p>WDC の予算計画の段階に WDO と WDC 校長が参加することは重要であり、今後対応していく。</p>	

6 . National Centre for Women Development (NCWD)

日 程	2008 年 11 月 24 日
面談者	Mr. Sadeeq Omar, Director, Planning and Research, Project Manager of the Project
<p>（武藤団長）カノ州での調査結果の報告と中間評価の概要説明：カノ州では自立発展の兆しが見えるが、他方、連邦レベルでは困難があるように察する。予算確保の状況を確認したい。</p> <p>（Mr. Sadeeq Omar）2008 年度は（JICA プロジェクト用にはおおよそ 700 万ナイラを要求した）C/P ファンドについて、これから配分されるであろうが、まだ執行されていない、という状況である。これは JICA 支援の本プロジェクトだけでなく、いずれのドナー支援プロジェクトでも同様に資金がない。現在はセンターの独自収入（例：敷地内のテナント収入等）や間接費から本プロジェクトに必要な資金を何とか捻出している状態である。私自身はスタッフのモチベーションは手当などのお金の問題ではない、と思っている。2009 年度用はこれからの準備であるが、他のドナー支援プロジェクトもあわせて約 3,300 万ナイラを C/P ファンドとして申請する予定である。</p> <p>（Mr. Sadeeq Omar）NCWD のマンダートはジェンダーに係る研究、訓練と文書作成である。例えばジェンダーデータバンクによる定期的なデータ収集などを通じ、ジェンダー平等推進を実施している。WDC 活性化のためのガイドライン作成後、NCWD は、WDC 及び州に対し、WDC へのガイドライン活用に関する技術的アドバイスを行う立場を担うと考える。ガイドラインに沿った現場での活動を supervise するのは SMWA である。ガイドラインは全国の WDC が対象であるため、カノ州に限定せず、他州でのグッドプラクティスもより反映した</p>	

い。ナイジェリアは地域特性が多様で、WDC 活性化のためのアプローチには地域差があると思われるため、ガイドラインには、WDC の職員の条件などの基準設定、管理規定等、普遍的に適用可能な基準だけでなく、社会文化特性への配慮も内容に盛り込みたい。

(Mr. Sadeeq Omar) NCWD スタッフの日本での研修は、組織任務の認知や視野の広がり、経験の点で大きな効果をもたらす結果となったことを感謝している。日本人長期専門家の派遣期間やその専門性について問題は感じていないが、短期専門家の派遣は2週間という短期もあり、その場合、LGA に滞在する時間が短くなる。少なくとも4週間を最低の期間として、相手機関(特にLGA)への業務内容を通じた発見のフィードバック、評価を行う時間も設定してほしい。

日 程	2008年11月24日
面談者	Dr. Aisha Mahmood, Director General, NCWD, Project Director of the Project
<p>(武藤団長) カノ州での調査結果の報告と中間評価の概要説明: プロジェクトの後半はNCWDの役割が一層増すため、予算措置への努力も重要である。</p> <p>(Dr. Aisha Mahmood) NCWD はWDC 活性化に関するガイドラインの策定については既にコミットしている立場である。このプロジェクトと同様に特定の州の事例を収集し、ベースとするような支援を他ドナーに対してもプロポーザルを提出中である。少なくとも3ゾーンで実施したい。</p> <p>(Dr. Aisha Mahmood) C/P ファンドに関して2008年度分は財務省から承認されていない。NCWD は本来、州やLGA を支援している立場でもあり、プロジェクト資金はLGA が負担するべきである。NCWD は連邦からの予算配分が少ないなか、プロジェクトにコミットしていることをJICAにもっと評価をしてほしい。</p>	

7. Federal Ministry of Women Affairs and Social Development

日 程	2008年11月24日
面談者	Ms. Grace Ekpiwhre, Acting-Minister/ Mr. Y.N. Giwa, Permanent Secretary
<p>(武藤団長) プロジェクト背景、カノ州での調査結果の報告と中間評価の概要説明: 評価としては全体的にはとてもよい。特に、LGA/WDC とコミュニティでのインパクトが大きい。</p> <p>(Ms. Grace Ekpiwhre) FMWA の役割はアドボカシーである。すべての省庁に女性開発ユニットを設ける動きもある。子供への影響等、コミュニティで女性が与える影響は大きいと認識している。WDC はノンフォーマル教育の場であり、その活性化に向けて本プロジェクトがモデルになると理解しているので、今後はその効果を全国でも同様に拡大したい。今後もWDC 活性化には継続して取り組み、自立発展性を高めていきたい。JICA はWDC で習得できる技術の高度化もめざすのか。</p> <p>(武藤団長) WDC での生産品の付加価値化、差別化は必要であり、第2フェーズではその方向での活動を考えている。</p> <p>(Mr. Y.N. Giwa) 日本による無償資金協力について、保留中である障害者センターへの支援も期待する。</p>	

8. 在ナイジェリア日本国大使館

日 程	2008年11月27日
面談者	植澤利次大使、渡辺信人一等書記官
<p>(武藤団長) 調査結果と評価概要の報告：自立発展性はカノ州において問題はないと思われるが、中央レベルではガイドライン作成後の全国展開に関し、NCWDからのローカルコストの支払い、スタッフのモチベーションに不安がある。フェーズ2ではNCWDの役割が重要になるため、NCWDの今後を見守る必要がある。</p> <p>(植澤大使) ナイジェリアでは人材に能力はあるものの、ガバナンスがうまくいっていない。地方分権の潮流から、利害関係者に近い場所に直接予算を配分することになっているが、援助の点ではそれで効果が出るかどうかは容易でない面がある。また日本の援助は成果に対する評価を重視するが、実際は参加者の動きに左右されるダイナミズムがあるので、この点も考慮が必要であろう。本プロジェクトは優良案件であるので、良い評価を与えてほしい。</p>	

9. National Planning Commission (NPC)

日 程	2008年11月27日
面談者	Mr. George Hwdupue, Director, Bilateral and International Economic Cooperation Dept., Mr. Nwozuzu Samuel, Assistant Chief, Planning Officer, Bilateral and International Economic Cooperation Dept.
<p>(上田団員) 調査結果と評価概要の報告</p> <p>(Mr. George Hwdupue) 日本からの支援と評価調査には感謝している。JCCでの議論にあった、NCWDの2008年度のC/Pファンド未承認により発生している問題は、ナイジェリア側として申し訳ないと思っている。本プロジェクトは2国間の協力なので、当方からも財務省宛にレターを出し、ファンドの承認を促す予定で、問題解決に協力するつもりである。同時にNCWDが自ら強くプッシュすることも必要である。カノ州は人口も多く、能力も高い。コミットもある。今後のプロジェクトにおけるコミットはLGAにもあるべきだ。</p> <p>(甲斐田専門家) NCWDのスタッフに関して、研究者と自称してもその能力を備えていないことも課題である。人により能力がかなり異なるのが実情である。</p>	